

# 授業計画

## (2年課程)

別府市医師会立別府青山看護学校

領 域	基礎分野	履修時期	1年 後期
科 目 名 (単元名)	論理学	時間数	30時間
講 師	神崎 英紀	実務経験 関連資格	元 大分大学 教育学部 教授

<概要>

現象を系統的に判断、解釈できる能力を養い、思考の形式と法則性を学ぶ。

<科目目標(もしくは単元目標)>

1. 論理学について、命題と論理、推理と判断、演繹と帰納について理解する。
2. 国語表現法および論文・文学作品等の文章の構造分析と解釈について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	読み書きの基本 1	講義
2回目	読み書きの基本 2	講義
3回目	読み書きの技法 1	講義
4回目	読み書きの技法 2	講義
5回目	論理的文章の構成 1	講義
6回目	論理的読解	講義
7回目	論理的読解	講義
8回目	論理的文章の構成 2	講義
9回目	論理的文章の構 3	講義
10 回目	思考の論理的表現法	講義
11回目	思考の論理的表現法	講義
12回目	メタ思考の練習	講義
13回目	論理的読み書きの応用練習	講義
14回目	論理的読み書きの応用練習	講義

15回目	課題学習 終講試験	
テキスト・参考文献		
<p>評価基準 学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。</p> <p>評価方法 筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。</p>		

領 域	基礎分野	履修時期	2年 後期
科 目 名 (単元名)	情報科学	時間数	30時間
講 師	安部 民枝	実務経験 関連資格	パソコン講師、情報モラル講師 IT企業勤務、高等専門学校講師

<概要>

情報科学の基礎理論を理解し、コンピューター操作の基礎知識を学ぶ。

<科目目標(もしくは単元目標)>

1. 情報科学の基礎および看護と情報処理について理解する。
2. 情報の取り扱い(個人情報と情報管理)について理解する。
3. パーソナルコンピューターの基本的操作および文献検索法について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	パソコンの基礎	講義、演習
2回目	文字の入力、ファイル保存、ファイルを開く	講義、演習
3回目	Word 書式の設定	講義、演習
4回目	Word 表の作成	講義、演習
5回目	Power Point スライドの作成	講義、演習
6回目	Power Point 様々なコンテンツの作成	講義、演習
7回目	インターネット、文献検索	講義、演習
8回目	情報の取り扱い、情報モラル	講義、演習
9回目	Excel 表の作成、データの入力	講義、演習
10回目	Excel	講義、演習
11回目	Excel	講義、演習
12回目	Excel	講義、演習
13回目	総復習、模擬テスト	講義、演習
14回目	実技テスト	講義、演習

15 回目	まとめ 終講試験	
テキスト・参考文献 イチからしっかり学ぶ office365・office2019 対応		
評価基準 学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 評価方法 筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。		

領 域	基礎分野	履修時期	2年 後期
科 目 名 (単元名)	教育学	時間数	30時間
講 師	伊藤 安浩	実務経験 関連資格	大分大学 教育学部 教授

<概要>

人間が社会的存在として成立するために、必要な不可欠な営為である教育について理解し、人間を対象とする看護を実践していくための基礎的知識を学ぶ。

<科目目標(もしくは単元目標)>

1. 人間の成長・発達や学習に関する教育学の意義について理解する。
2. 教育とは何か、教育の対象と必要性、教育の内容、教育の方法、教育の評価に関する基礎を理解する。
3. 教育に関する自分の考えを確立し、看護活動に活用する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	なぜ、教育学を学ぶのか	講義
2回目	教育の現状の批判的検討	講義
3回目	「教育(education)」の定義	講義
4回目	educere(エデュセーレ)と educare(エデュカーレ)	講義
5回目	誕生直後の人間の姿	講義
6回目	人間にとって「教育」とは何か	講義
7回目	子ども観の変遷～古代～	講義
8回目	子ども観の変遷～中世～	講義
9回目	子ども観の変遷～近世・近代～	講義
10回目	子ども(児童)の権利条約	講義
11回目	家族関係・子育て観の日米比較	講義
12回目	生命倫理の問題～精子バンク利用のシングルマザー～	講義
13回目	生命倫理の問題～代理出産～	講義

14回目	講義のまとめ	講義
15回目	まとめ 終講試験	

テキスト・参考文献

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領域	基礎分野	履修時期	1年 前期、後期
科目名 (単元名)	英語	時間数	45時間
講師	西林 はるひ	実務経験 関連資格	高等学校教育 英語教諭

<概要>

英語によるコミュニケーションに必要な基礎能力を身につけると共に外国人患者への的確な対応に役立つ医療関連の用語や表現を学ぶ。

<科目目標(もしくは単元目標)>

1. 基礎英語力(語彙、語法、リスニング力、基本的な英会話)を身につける。
2. 看護・医療の現場に必要な英語を習得し、異文化理解をも踏まえた基礎的コミュニケーション能力を養う。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	授業ガイダンス リスニング	講義
2回目	初診の患者に対する質問等 1 リスニング	講義
3回目	小テスト、初診の患者に対する質問等 2 リスニング	講義
4回目	小テストのポイント解説、リスニング Communication Strategy(文化的・社会的背景の違いに配慮した質問の仕方)	講義
5回目	小テスト Communication Strategy(正確な情報を得るための聞き返し、患者の気持ちを和らげるための質問)、リスニング	講義
6回目	体の部位の名称 1 リスニング	講義
7回目	小テスト、体の部位の名称 2、痛みの訴え方 1 リスニング	講義
8回目	小テスト、痛みの訴え方 2 リスニング	講義
9回目	小テスト、症状の訴え方 1 リスニング	講義
10回目	小テスト、症状の訴え方 2、診療科の名称 1(語源と語構成を中心に) リスニング	講義
11回目	小テスト、診療科の名称 2 リスニング	講義
12回目	小テスト、診療科の名称(追加情報)、measurements(計測の用語、摂氏・華氏の変換等) リスニング	講義
13回目	Vital Signs 1 リスニング	講義



14回目	Vital Signs 2 リスニング	講義
15回目	Vital Signs 3(測定で用いる会話表現等)、病名を英語で 1 リスニング	講義
16回目	小テスト、病名を英語で 2 リスニング	講義
17回目	小テスト、痛みの表現 1(さまざまな種類の痛み) リスニング	講義
18回目	痛みの表現 2(痛みの度合いPain Scale)、診察室・処置室・検査室等 での患者への指示表現 1 リスニング	講義
19回目	診察室・処置室・検査室等での患者への指示表現 2 リスニング	講義
20回目	Medication 1 リスニング	講義
21回目	Medication 2 リスニング	講義
22回目	病棟・病室の用具・備品の名称、内臓器官の名称 リスニング	講義
23回目	終講試験	

テキスト・参考文献

看護系学生のための実践英語(改訂版) 朝日出版

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	基礎分野	履修時期	1年 後期
科 目 名 (単元名)	心理学	時間数	30時間
講 師	麻生 良太	実務経験 関連資格	大分大学 教育学部附属教育実践総合 センター 准教授

<概要>

人間の心の働きを学び、人間の行動の原理を多面的に理解する。

<科目目標(もしくは単元目標)>

1. 心とからだ、心の動き(知覚、行動、発達・思考・統合的に生きる人間)について理解する。
2. 自己と他者、適応の心理について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	発達の心理①胎生期	講義
2回目	グループワーク①価値交流学习	講義
3回目	発達の心理②新生児期・乳児期	講義
4回目	グループワーク②協働学習	講義
5回目	発達の心理③幼児期 1	講義
6回目	発達の心理④幼児期 2	講義
7回目	グループワーク③問題解決	講義
8回目	発達の心理⑤児童期 1	講義
9回目	発達の心理⑥児童期 2	講義
10回目	発達の心理⑦青年期 1	講義
11回目	発達の心理⑧青年期 2	講義
12回目	グループワーク②同調と説得	講義
13回目	発達の心理⑨同調と説得	講義
14回目	性格の心理	講義

15 回目	まとめ 終講試験	
テキスト・参考文献 あなたのこころを科学する 3 北大路書房		
評価基準 学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 評価方法 筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。		

領 域	基礎分野	履修時期	1年 前期
科 目 名 (单元名)	社会学	時間数	30時間
講 師	松森 武嗣	実務経験 関連資格	長崎県立大学 非常勤講師 (元) 別府大学 文学部 史学・文化財学科 教授

<概要>

看護の対象が、さまざまな地域社会に暮らし、多様な社会関係の中で生活していることを認識できるようにする。

<科目目標(もしくは単元目標)>

1. 人間と社会(社会とは何か、社会と経済、社会と国家、社会集団)について理解する。
2. 家族社会(家族の構造と機能、家族社会の変遷、これからの家族のあり方について理解する。
3. 現代社会(都市と過疎、少子高齢化、若者の価値観の多様化)、地域福祉、高齢者福祉、コミュニティについて理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	授業概要 社会学内容分類表の解説	講義
2回目	戦前の日本社会	講義
3回目	戦後の日本社会	講義
4回目	コミュニティの定義	講義
5回目	都市コミュニティの理論	講義
6回目	コミュニティ形成と社会参加(1)	講義
7回目	コミュニティ形成と社会参加(2)	講義
8回目	地域福祉の基本理念	講義
9回目	地域福祉の内容	講義
10回目	地域福祉の対象	講義
11回目	福祉の沿革(1)	講義
12回目	福祉の沿革(2)	講義

13回目	高齢化の現状と将来	講義
14回目	地域福祉の構成	講義
15回目	まとめ 終講試験	

テキスト・参考文献

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	基礎分野	履修時期	1年 前期、後期
科 目 名 (単元名)	生物学	時間数	30時間
講 師	西村 靖史	実務経験 関連資格	別府大学 人間関係学科 教授

<概要>

ヒトと人間について理解し、人間の生命・人間の尊重について追及し、現代の人間の環境や生活について考える。

<科目目標(もしくは単元目標)>

1. 生命体の構成(細胞の構造と機能・細胞分裂)、遺伝・変異(進化と遺伝子)について理解する。
2. 人の生物学的特徴、生物と環境とのかかわりについて理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	1. 生物学の概要	講義
2回目	1. 生命の多様性と進化(生物とは)	講義
3回目	1. 生命の多様性と進化(生物とは)	講義
4回目	1. 生命の多様性と進化(プリオン)	講義
5回目	1. 生命の多様性と進化(進化のメカニズム、科学としての生命科学)	講義
6回目	1. タンパク質の構造	講義
7回目	1. タンパク質の構造	講義
8回目	1. ヒトゲノム遺伝子(遺伝、DNA鑑定、ポストゲノム)	講義
9回目	1. 人間の身体と栄養	講義
10回目	1. 人間の身体と栄養 肥満、免疫アレルギー、記憶と神経	講義
11回目	1. 脳機能、理性と脳、ヒトの病気	講義
12回目	1. ヒトの病気	講義
13回目	1. ヒトのこころ	講義

14回目	1. 人間と地球の環境	講義
15回目	課題学習 終講試験	講義

テキスト・参考文献

新生物学ライブラリー2 よくわかる生命科学 サイエンス社

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領域	基礎分野	履修時期	1年 前期
科目名 (単元名)	グループワーク論	時間数	15時間
講師	古城 和敬	実務経験 関連資格	放送大学 大分学習センター 所長(特任教授) 大分大学名誉教授

<概要>

集団討議の基礎的知識を理解し、集団思考を高める技術を学ぶ。

<科目目標(もしくは単元目標)>

1. 集団の力学、集団討議の形式について理解する。
2. グループワーク(KJ法)をとおして、集団討議の方法を理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	1. グループワークとは何か	講義
2回目	1. グループワーク(1) ワーク課題 「これからの看護職(看護師)に求められるもの」 事前準備とラベル集め	講義、演習
3回目	1. グループワーク(2) ラベル集め	講義、演習
4回目	1. グループワーク(3) ラベル集めと表札づくり	講義、演習
5回目	1. グループワーク(4) 空間配置と図解化	講義、演習
6回目	1. グループワーク(5) 図解化と文章化	講義、演習
7回目	1. グループワーク(6) グループ発表 発表内容 これからの看護職(看護師)に求められるもの	講義、演習
8回目	課題レポート	

テキスト・参考文献

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

課題レポート 100%、60%未満は再試験とする。



領域	基礎分野	履修時期	1年 前期
科目名 (単元名)	グループワーク論	時間数	15時間
講師	古城 和敬	実務経験 関連資格	放送大学 大分学習センター 所長(特任教授) 大分大学名誉教授

<概要>

集団討議の基礎的知識を理解し、集団思考を高める技術を学ぶ。

<科目目標(もしくは単元目標)>

1. 集団の力学、集団討議の形式について理解する。
2. グループワーク(KJ法)をとおして、集団討議の方法を理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	1. グループワークとは何か	講義
2回目	1. グループワーク(1) ワーク課題 「これからの看護職(看護師)に求められるもの」 事前準備とラベル集め	講義、演習
3回目	1. グループワーク(2) ラベル集め	講義、演習
4回目	1. グループワーク(3) ラベル集めと表札づくり	講義、演習
5回目	1. グループワーク(4) 空間配置と図解化	講義、演習
6回目	1. グループワーク(5) 図解化と文章化	講義、演習
7回目	1. グループワーク(6) グループ発表 発表内容 これからの看護職(看護師)に求められるもの	講義、演習
8回目	課題レポート	

テキスト・参考文献

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

課題レポート 100%、60%未満は再試験とする。

領 域	基礎分野	履修時期	2年 後期
科 目 名 (単元名)	人間関係論	時間数	30時間
講 師	池永 恵美	実務経験 関連資格	大分大学 福祉健康科学部健康科学科 心理学コース 准教授 博士(心理学) 臨床心理士

<概要>

体験により他者および自己を理解する。

<科目目標(もしくは単元目標)>

1. 体験による他者との出会いについて理解する。
2. 他者及び自己理解について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	ガイダンス エンカウンターグループとは	講義
2回目	ブラインドウォークで目の見えない人の気持ちを考える	講義、演習
3回目	心の天気を絵で表現する	講義
4回目	応答構成①自殺願望のある女子高生の気持ちを考える	講義
5回目	応答構成②グループでシェアリングする	講義
6回目	リラクセーション 四つの窓①	講義
7回目	四つの窓②グループでシェアリングする	講義
8回目	人生曲線①自分のこれまでの人生を振り返る	講義
9回目	人生曲線②グループでシェアリングする	講義
10回目	未来の理想の自分と現在の自分①	講義
11回目	未来の理想の自分と現在の自分②	講義
12回目	ポジティブフィードバック①	講義
13回目	ポジティブフィードバック②	講義
14回目	まとめ	講義

15回目	終講試験	
テキスト・参考文献		
<p>評価基準 学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。</p> <p>評価方法 課題試験 100%、60%未満は再試験を行う。</p>		

領 域	基礎分野	履修時期	1年 前期
科 目 名 (単元名)	スポーツ生理学	時間数	30時間
講 師	長野 力	実務経験 関連資格	別府大学 健康センター所長 健康運動指導士

<概要>

スポーツ・レクリエーションをとおして、健康生活を支える運動について考え、自己の体力をつくと共に、個人および集団の健康づくりに生かせるようにする。

<科目目標(もしくは単元目標)>

1. 運動が身体に及ぼす影響(動作のメカニズム、性、年齢、経験に合わせた運動の種類と必要性を理解する。
2. スポーツ、レクリエーションの意義と進め方について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	オリエンテーション 健康度、生活習慣診断検査	講義
2回目	ストレッチ体操 バレーボール、バトミントン	演習
3回目	ストレッチ体操 バレーボール、バトミントン	演習
4回目	ストレッチ体操 バレーボール、バトミントン	演習
5回目	バレーボール大会	演習
6回目	小さな旅、折り紙(名札、メダル)	演習
7回目	体力測定方法実習	演習
8回目	室内レクゲーム	演習
9回目	ストレッチ体操	演習
10回目	脳トレ、室内ゲーム	演習
11回目	ドッチビー、ディスクゴルフ	演習
12回目	ソフト野球、サッカー	演習
13回目	リレー、ストレッチ体操	演習

14回目	健康について	講義
15回目	健康度、生活習慣診断検査 終講試験	

テキスト・参考文献

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

# 專門基礎分野

領 域	専門基礎分野	履修時期	1年前期
科目名 (单元名)	解剖生理学 I	時間数	30 時間
講 師	①金馬 義平 ②戸崎 由布子	実務経験 関連資格	①医師 ②病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校専任教員

<概要>

人体の内部を見ると、その内部には、肉眼的に扱える構造物、すなわち器官がいくつもおさまっている。解剖学はおもに構造を、生理学はおもに機能を扱うが、医学の基礎としての学習では、それらの器官の一つひとつについて、構造と機能を一体のものとして学んでいく。

<科目目標>

1. 体の構造と機能について理解する。

<内 容>

	内容	授業方法
1回目	解剖生理学の基礎知識 1. 人体とはどのようなものか 2. 人体の素材としての細胞・組織	
2回目	解剖生理学の基礎知識 3. 構造と機能からみた人体	
3回目	Ⅱ. 栄養の消化と吸収 1. 口・咽頭・食道の構造と機能 2. 腹部消化管の構造と機能	
4回目	Ⅱ. 栄養の消化と吸収 3. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	
5回目	Ⅱ. 栄養の消化と吸収 4. 腹膜	
6回目	Ⅲ. 呼吸と血液のはたらき 1. 呼吸器の構造	
7回目	Ⅲ. 呼吸と血液のはたらき 2. 呼吸	
8回目	Ⅲ. 呼吸と血液のはたらき 3. 血液	
9回目	Ⅳ. 血液の循環とその調節 1. 循環器系の構造	
10回目	Ⅳ. 血液の循環とその調節 2. 心臓の構造	
11回目	Ⅳ. 血液の循環とその調節 3. 心臓の拍出機能	
12回目	Ⅳ. 血液の循環とその調節 4. 末梢循環系の構造	
13回目	Ⅳ. 血液の循環とその調節 5. 血液の循環の調節 6. リンパとリンパ管	

14 回目	V. 体液の調節と尿の生成 1. 腎臓 2. 排尿路 3. 体液の調節	
15 回目	課題学習 終講試験	
テキスト・参考文献 1. 系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学(人体の構造と機能①) (医学書院)		
評価基準 学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 評価方法 筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う		



領 域	専門基礎分野	履修時期	1年前期
科目名 (单元名)	解剖生理学Ⅱ	時間数	30 時間
講 師	①金馬 義平 ②川野 明子	実務経験 関連資格	①医師 ②病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校専任教員
<p>&lt;概要&gt;          人体の内部を見ると、その内部には、肉眼的に扱える構造物、すなわち器官がいくつもおさまっている。解剖学はおもに構造を、生理学はおもに機能を扱うが、医学の基礎としての学習では、それらの器官の一つひとつについて、構造と機能を一体のものとして学んでいく。</p> <p>&lt;科目目標&gt;          1. 人体の構造と機能について理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p>			
	内容	授業方法	
1回目	I. 情報の受容と処理 1. 神経系の構造と機能 2. 脊髄と脳	講義	
2回目	I. 情報の受容と処理 3. 脊髄神経と脳神経 4. 脳の高次機能	講義	
3回目	I. 情報の受容と処理 5. 運動機能と下行伝導路 6. 感覚機能と上行伝導路 7. 眼の構造と視覚	講義	
4回目	I. 情報の受容と処理 8. 耳の構造と聴覚・平衡覚 9. 味覚と嗅覚 10. 疼痛(痛み)	講義	
5回目	II. 内臓機能の調節 1. 自律神経による調節 2. 内分泌系による調節	講義	
6回目	II. 内臓機能の調節 3. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 4. ホルモン分泌の調節 5. ホルモンによる調節の実際	講義	
7回目	III. 身体の支持と運動 1. 骨格とはどのようなものか 2. 骨の連結 3. 骨格筋 4. 体幹の骨格と筋	講義	
8回目	III. 身体の支持と運動 5. 上肢の骨格と筋 6. 下肢の骨格と筋 7. 頭頸部の骨格と筋 8. 筋の収縮	講義	
9回目	IV. 外部環境からの防御 1. 皮膚の構造と機能 2. 生体の防御機構	講義	

10回目	IV. 外部環境からの防御 3. 体温とその調節	講義
11回目	V. 生殖・発生と老化のしくみ 1. 男性生殖器 2. 女性生殖器	講義
12回目	V. 生殖・発生と老化のしくみ 3. 受精と胎児の発生 4. 成長と老化 VI. 体表からみた人体の構造	講義
13回目	人体の構造と機能 ～生活行動と機能・生理～	演習
14回目	人体の構造と機能 ～生活行動と機能・生理～	演習
15回目	課題学習 終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学(人体の構造と機能①) (医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門基礎	履修時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	薬理学	時間数	15 時間
講 師	宮田 拓周	実務経験 関連資格	病院における薬剤師経験

<概要>

薬物とは、直接的、間接的に摂取、適用することによりヒトの生体機能に影響を及ぼす化学物質の事であり、薬物と生体との相互作用の結果起こる現象を研究する学問を薬理学という。

医療に携わる者は、薬物に関する知識を十分に修得し、医療現場で応用する必要がある。看護を職業とするものは、薬物の作用(薬効)、臨床応用(適性疾患)、正しい与薬法(薬物動態)、与薬後の注意(十分な観察とケア)、有害作用(副作用)とその対策(処置)、医薬品の取り扱い方をしっかり身につけておかなければならない。その為、既習学習である解剖生理学や生化学、基礎看護学での学びをふまえて、薬物作用の理論、各薬物の特徴(作用、副作用、体内動態)、作用機序、及び薬物の管理について学習する。また、薬物療法における看護師の役割や、チーム医療の一員としての重要性について考える。

<科目目標>

1. 薬物が作用する仕組みと体内動態の基礎について説明できる
2. 薬物の作用と相互作用について説明できる
3. 薬物の保管・管理と法的規制について説明できる
4. 代表的な薬物の作用、動態、作用機構、医療用途および主な副作用を説明できる
5. 薬物療法における看護師の役割について考える

	内容	授業方法
1回目	総論、末梢神経系	講義
2回目	中枢神経系、血管心臓系①	講義
3回目	中枢神経系、血管心臓系②	講義
4回目	消化器系、血液系	講義
5回目	物質代謝系、抗がん剤	講義
6回目	免疫系	講義
7回目	抗感染症、輸液	講義
8回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. わかりやすい 薬理学 第3版(ヌーヴェルヒロカワ)

評価基準

学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門基礎	履修時期	1年後期
科目名 (单元名)	生化学	時間数	30時間
講 師	藤岡 竜太	実務経験 関連資格	別府大学短期大学 食物栄養科 准教授

<概要>

生体がどのような化合物でなりたっていて、それらの化合物がどのようにつくられ、こわされて、生体の恒常性が保たれているかということの基礎をきちんと示してくれる学問が、生化学である。生化学を学ばなければ、生体の正常なしくみ・機能の破綻した状態である病気を正しく理解することはできない。生命を守る役割の一反を担う看護師は、生命が成り立っているしくみを知っておかなければならず、その前提となる正常な代謝を理解することが必要である。

生化学はまた、栄養学や薬理学とも不可分な関係にある。

栄養学は、エネルギーとさまざまな栄養素のはたらきを解明する学問分野である。近年、生活習慣病予防のための保健指導・栄養指導や、さらに在宅医療における在宅栄養管理の重要性が高まっており、看護師は、保健師・管理栄養士と連携して、これらを進めていく必要がある。また、疾患を治療する上で、病態の経過を左右する要因として適切な栄養管理が重要であることが認識され、今や多くの病院でNSTが稼働している。そのため、チームの一員となる看護師は、生体が発育・成長して生命を維持し健全な生命活動を営むために、体外から取り入れるべき必須物質である栄養素について理解することが必要である。

体内にどんな物質があるか、体内でどんな化学反応がおこっているかを学ぶ。また、糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミンについて、その栄養学的機能、消化・吸収・代謝、食事摂取基準、欠乏症等について学ぶとともに、チーム医療の一員として、看護師が果たすべき役割について考える。

<科目目標>

1. 生体を構成する物質について説明できる
2. 生体内の物質代謝について説明できる
3. 栄養素の種類とはたらきについて説明できる
4. 栄養状態を評価・判定する方法を説明できる
5. ライフステージ各期の食事摂取基準について説明できる
6. 栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害を理解し、その看護について考える
7. 栄養サポートチームの一員として、看護師が果たす役割について考える

<内容>

	内容	授業方法
1回目	生化学を学ぶための基礎知識	講義
2回目	代謝の基礎と酵素・補酵素	講義
3回目	糖質の構造と機能	講義
4回目	糖質代謝	講義
5回目	脂質の構造と機能	講義
6回目	脂質代謝	講義

7回目	たんぱく質の構造と機能、たんぱく質代謝	講義
8回目	たんぱく質代謝、ポルフィリン代謝と異物代謝、核酸と遺伝子	講義
9回目	核酸と遺伝子、小テスト	講義
10回目	遺伝子の複製・修復・組み換え・転写	講義
11回目	シグナル伝達(がん)	講義
12回目	人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき、食物の消化と栄養素の吸収、エネルギー代謝	講義
13回目	食物の消化と栄養素の吸収、エネルギー代謝、食事と食品	講義
14回目	栄養ケア、マネジメント、栄養状態の評価と判定、ライフステージと栄養	講義
15回目	ライフステージと栄養、臨床栄養、健康づくりと食生活	講義
16回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 人体の構造と機能〔2〕 生化学 第13版(医学書院)
2. 系統看護学講座 人体の構造と機能〔3〕 栄養学 第12版(医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門基礎	履修時期	1年後期
科目名 (单元名)	病理学 I	時間数	15 時間
講 師	局 敏郎	実務経験 関連資格	医師

<概要>

臨床では様々な診療科がわかれており、看護師は、それぞれの診療科に応じて多くの病気についての知識を学んでいくことが求められている。しかし、炎症や腫瘍、循環障害といった疾患の基本概念は、臓器ごとの特殊性はあるものの本質的な点においては同じであり、本質から理解していくことが重要である。

そこで、人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の様々な症状・徴候のメカニズムに共通する現象を学ぶことで、疾病の原因や成り立ち、症状について理解する。また、臓器、組織、細胞の変化としての病変について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解することで、この後に学習を進める、各々の器官に生じる病気ごとの原因や病気の成り立ちなどの特徴を理解していくための、基本的知識を修得する。

また、病院における病理検査について、看護師が知っておくべき最低限の知識を学ぶ

<科目目標>

1. 病気の原因と、病因に基づく疾患の分類を説明できる。
2. 疾病の原因、疾病の成り立ち、進展あるいは治癒経過などを学習し、病気とは何かを説明できる
3. 人体の構造と機能において、正常から逸脱する場合の様々な症状・徴候のメカニズムに共通する現象を説明できる。
4. 病理検査について、その役割と内容を説明できる。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 病理学の概念 1. 病理学とは何か 2. 病理学を学ぶ意義	講義
2回目	II. 病因論 1. 病気の原因 1) 疾病を引き起こす内的・外的要因 2) 公害病、医原病、職業がん	講義
3回目	2. 病気の分類	講義
4回目	III. 基本的な病変 1. 細胞の障害 1) 萎縮 2) 変性 3) 壊死とアポトーシス	講義
5回目	2. 細胞の障害に対する修復・再生・適応 1) 創傷とその治癒 2) 再生と修復 3) 肥大と過形成	講義
6回目	3. 基本的な病変とその機序 1) 循環障害 2) 炎症・壊死 3) 免疫異常(アレルギー、自己免疫疾患) 4) 代謝障害	講義

7回目	5) 老年症候群 6) 先天異常(遺伝子異常) 7) 腫瘍	講義
8回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 病理学(疾病の成り立ちと回復の促進①) 第5版(医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領域	専門基礎	履修時期	1年後期
科目名 (单元名)	病理学Ⅱ 循環器系	時間数	17時間
講師	堀 秀史 吉賀 攝	実務経験 関連資格	医師

<概要>

医療の標準化が進み、確立された検査や治療が行われる一方で、それぞれの患者は、1人ひとりが異なる身体的および社会・心理的背景を持っている。看護師はこのような患者のかかえる健康上の問題を明らかにして、個別性にそった全人的な看護を行っていかねばならない。そのため、看護の対象としての人間のあらゆる変化に対応できる知識・技術・態度を学び取るために必要な医学的知識として、臓器系特有の症状をとらえ病態生理、治療、検査について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解することが必要である。

解剖生理学や病理学での学びを踏まえ、生命維持の根幹をなす循環器系の構造と機能について理解する。また、看護実践に活かすことができるようにするため、看護者が臨床の場で実際に関与することの多い、疾患や症状、検査、治療などを学習する

<科目目標>

1. 循環器の構造と機能を述べることができる
2. 主な症状とその病態生理について述べるができる
3. 主な検査と治療について述べるができる
4. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について述べるができる

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 循環器の構造と機能について 1. 心臓の構造と機能について 2. 血管の構造と機能について 3. 循環の調節について	
2回目	II. 主な症状とその病態生理について 1. 胸痛 2. 呼吸困難 3. 浮腫 4. チアノーゼ 5. ショック 6. その他(動悸、めまい・失神、四肢の疼痛)	
3回目	III. 主な検査と治療について 1. 診察と診断の流れについて 2. 検査について 1) 心電図 2) 胸部 X 線検査 3) 心エコー法 4) 脈波検査 5) 心臓カテーテル法 6) 血行動態モニタリング 7) 心臓核医学検査 8) コンピュータ断層撮影(CT) 9) 磁気共鳴画像法(MRI)	



4回目	<p>Ⅲ. 主な検査と治療について</p> <p>3. 内科的治療について</p> <p>1) 薬物療法の基本について</p> <p>① 心臓に作用する薬について (強心薬、抗不整脈薬、狭心症治療薬、降圧薬・昇圧薬、他)</p> <p>② 薬物療法の注意点について</p> <p>2) 経皮的冠状動脈インターベンション(PCI)について</p> <p>3) ペースメーカー治療について</p> <p>4. 外科的治療について</p> <p>1) 心臓手術の周術期管理について</p> <p>2) 冠状動脈バイパス術(CABG)について</p> <p>3) 弁置換術について</p> <p>4) 大血管再建術について</p> <p>5) 血栓除去術について</p> <p>5. 補助循環装置について</p> <p>1) 大動脈内バルーンパンピングについて</p> <p>2) 経皮的心肺補助について</p> <p>3) 補助人工心臓について</p>	
5回目	<p>Ⅳ. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について</p> <p>1. 虚血性心疾患について</p> <p>2. 心不全について</p> <p>3. 血圧異常について(高血圧)</p>	
6回目	<p>Ⅳ. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について</p> <p>4. 不整脈について</p> <p>5. 弁膜症について</p> <p>6. 心膜炎について</p>	
7回目	<p>Ⅳ. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について</p> <p>7. 心筋疾患について(心筋症)</p> <p>8. 肺性心について</p> <p>9. 先天性心疾患について</p>	
8回目	<p>Ⅳ. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について</p> <p>10. 動脈系疾患について(大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、他)</p> <p>11. 静脈系疾患について(静脈瘤、静脈血栓症、他)</p> <p>12. リンパ系疾患について</p>	
9回目	終講試験	
<p>テキスト・参考文献</p> <p>1. 系統看護学講座 循環器 成人看護3 第14版(医学書院)</p>		
<p>評価基準</p> <p>学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。</p> <p>評価方法</p> <p>筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う</p>		

領 域	専門基礎分野	履修時期	1年次後期
科 目 名 (单元名)	病理学Ⅱ 呼吸器系	時間数	15 時間
講 師	河野 宏	実務経験 関連資格	医師

<概要>

最近の人口動態統計によると、年間の死因順位第 10 位までの中に、呼吸器疾患に関連するものが3項目含まれている。それだけ社会からの呼吸器診療および看護のニーズが高いと推察される。また、呼吸器はつねに外気と接しているため、生活している環境による影響を受けやすく、加齢による影響や長年の生活習慣との関連がある。呼吸器疾患患者は、呼吸器という生命を維持するうえで重要な器官を病んだことからくる身体的問題はもちろんのこと、心理的・社会的問題を伴い生活そのものへの影響を体験している。呼吸器系の看護師に求められる、疾患の病態に関する基本的知識と検査・治療について学習する。

<科目目標>

1. 呼吸器系の病因と病変の特徴について理解する。
2. 呼吸器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 呼吸器の構造と機能 1. 気道 2. 肺 3. 呼吸の生理	講義
2回目	II. 症状とその病態生理 1. 酸素化障害の原因と程度 2. 換気障害の原因と程度 3. 呼吸運動障害の原因と程度 4. 呼吸機能障害がもたらす生活への影響	講義
3回目	III. 検査と治療・処置 1. 気管支鏡検査 2. 胸腔穿刺 3. 肺生検 4. 呼吸機能検査 5. 動脈血血液ガス分析	講義
4回目	III. 検査と治療・処置 6. 肺切除術 7. 酸素療法	講義
5回目	III. 検査と治療・処置 8. 非侵襲的陽圧換気、侵襲的陽圧換気 9. 胸腔ドレナージ	講義
6回目	IV. 疾患の理解 1. 炎症性疾患(気管支炎・肺炎・間質性肺炎・胸膜炎) 2. 気管支喘息 3. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)	講義
7回目	IV. 疾患の理解 4. 肺循環障害(肺高血圧症、肺塞栓症) 5. 肺結核 6. 気胸 7. 腫瘍(肺がん、中皮腫)	講義

8回目	終講試験	
テキスト・参考文献  1.系統看護学講座 呼吸器(成人看護学②) (医学書院)		
評価基準 学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。 評価方法 筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う		

領 域	専門基礎分野	履修時期	1年次後期
科 目 名 (単元名)	病理学Ⅲ 運動器系	時間数	15 時間
講 師	野口 蒸治	実務経験 関連資格	医師

<概要>

外傷と非外傷、加齢に伴う退行性変化、障害に対する新たな能力の獲得、そして骨腫瘍といったように運動器疾患の発生機序、患者の経過、治療方法はさまざまである。そして、治療の選択や治療への取り組み方には、対象者の職業や経済状況、家族といった社会的要因が大きく影響を及ぼす。さらに、急性期医療、回復期リハビリテーション、そして在宅といったように、医療提供の場は多岐にわたる。看護がつながり、対象者とその家族に対して適切で切れ目のない看護を提供するために専門的知識・技術を学ぶ必要がある。

<科目目標>

1. 運動器系の病因と病変の特徴について理解する。
2. 運動器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 運動器の構造と機能 1. 骨 2. 関節 3. 神経と筋肉 4. 腱と靭帯	講義
2回目	II. 症状とその病態生理 1. 疼痛 2. 形態の異常 3. 関節運動の異常 4. 神経の障害 5. 異常歩行または跛行 6. 筋肉の異常 7. その他の異常	講義
3回目	III. 検査と治療・処置 1. 診察・診断の流れ 2. 検査 3. 治療・処置	講義
4回目	IV. 疾患の理解 1. 外傷性(外因性)の運動器疾患 1)骨折 2)脱臼 3)捻挫および打撲 4)神経の損傷 5)筋・腱・靭帯などの損傷	講義
5回目	2. 内因性(非外傷性)の運動器疾患 1)先天性疾患 2)骨・関節の炎症性疾患 3)骨腫瘍および軟部腫瘍 4)代謝性疾患	講義

6回目	2. 内因性(非外傷性)の運動器疾患 5) 筋および腱の疾患 6) 神経の疾患 7) 上肢および上肢帯の疾患	講義
7回目	2. 内因性(非外傷性)の運動器疾患 8) 脊椎の疾患 9) 下肢および下肢帯の疾患 10) ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 11) 廃用症候群	講義
8回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 呼吸器(成人看護学⑩) (医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領域	専門基礎分野	履修時期	1年次前期
科目名 (单元名)	病理学Ⅲ 消化器系	時間数	15 時間
講師	田村 洋一	実務経験 関連資格	医師

<概要>

消化器疾患は、食物の摂取、消化・吸収・排泄という一連のはたらきのなかで生じ、一部の機能障害が他の障害を引き起こすことも多い。その人らしい生活を営むうえでさまざまな影響を及ぼし、障害のレベルによっては生活環境の変化をもたらす。消化器系の看護師に求められる、疾患の病態に関する基本的知識と検査・治療について学習する。

<科目目標>

1. 消化器系の病因と病変の特徴について理解する。
2. 消化器系疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 消化器系の構造と機能 1. 食道の構造と機能 2. 胃・十二指腸の構造と機能 3. 小腸・大腸の構造と機能 4. 直腸・肛門の構造と機能 5. 肝臓の構造と機能 6. 胆道系の構造と機能 7. 膵臓の構造と機能	講義
2回目	II. 症状とその病態生理 1. 嚥下障害 2. おくび・胸やけ 3. はきけ・嘔吐 4. 腹痛 5. 吐血・下血 6. 下痢 7. 便秘 8. 腹部膨満 9. 食欲不振と体重減少 10. 腹水 11. 黄疸 12. 意識障害(肝性脳症)	講義
3回目	III. 検査と治療 1. 診察と診断の流れ 2. 検査 糞便検査 肝機能検査 栄養状態のアセスメント 膵外分泌検査 超音波検査 内視鏡検査 肝生検 放射線検査 X線コンピューター断層像 磁気共鳴像 陽電子放射断層撮影(PET) 3. 治療 1) 薬物治療 2) 栄養療法・食事療法 3) 手術療法 4) 放射線療法	講義

4回目	IV. 疾患の理解 1. 食道の疾患 1) 食道がん 2) 食道アカラシア 3) 胃食道逆流症 2. 胃・十二指腸疾患 1) 機能性ディスぺシア(機能性胃腸症) 2) 胃炎 3) 胃・十二指腸潰瘍 4) 胃がん	講義
5回目	3. 腸および腹膜疾患 1) 過敏性腸症候群 2) 腸炎 3) 腹膜炎 4) 虫垂炎 5) ヘルニア 6) イレウス(腸閉塞症) 7) 腸内寄生虫疾患 8) 消化管憩室 9) 腸管ポリープおよびポリポース 10) 結腸がん・直腸がん 11) 肛門疾患	講義
6回目	4. 肝臓・胆嚢の疾患 1) 肝炎 2) 肝硬変症 3) 門脈圧亢進症 4) 肝不全 5) 肝臓がん 6) 肝外傷 7) 胆石症 8) 急性胆嚢炎および胆管炎 9) 胆管がん 10) 胆嚢がん 11) 胆嚢ポリープ 12) 肝寄生虫疾患	講義
7回目	5. 膵臓の疾患 1) 膵炎 2) 慢性膵炎 6. 急性腹症 7. 腹部外傷	講義
8回目	終講試験	
テキスト・参考文献 1. 系統看護学講座 消化器(成人看護学⑤) (医学書院)		
評価基準 学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 評価方法 筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う		

領 域	専門基礎分野	履修時期	2年次前期
科目名 (单元名)	病理学Ⅳ 脳神経系	時間数	9 時間
講 師	市村 誉	実務経験 関連資格	医師

<概要>

脳・神経疾患は原因が究明されているのが少ない。そして、治療法がなく、症状が慢性に進行する疾患が多い。脳血管障害や頭部外傷などは、意識障害などを急激に引き起こし、患者の生命を危機におとしいれる。危機を脱し回復した後も機能障害を残すことが少なくない。一方、神経・筋疾患では、病状はゆるやかであるが進行し、それに伴って様々な機能障害がおこり、障害の範囲・程度は拡大していく。脳神経系の看護師に求められる、複雑な疾患の病態に関する基本的知識と検査・治療について学習する。

<科目目標>

1. 脳神経系の病因と病変の特徴について理解する。
2. 脳神経系疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 脳神経系の構造と機能 1. 神経細胞と神経組織 2. 中枢神経系 3. 末梢神経系 4. 運動機能と感覚機能	講義
2回目	II. 症状とその病態生理 1. 生命維持活動調節機能障害の原因と程度 2. 運動・感覚機能障害の原因と程度 3. 言語機能障害の原因と程度 4. 高次機能障害の原因と程度 5. 脳・神経機能障害がもたらす生命・生活への影響	講義
3回目	III. 検査と治療 1. 髄液検査 2. 脳血管造影 3. 脳波検査	講義
4回目	IV疾患の理解 1. 中枢神経系の疾患 1) 脳血管系の循環障害 2) 頭蓋内圧亢進に伴う症状 3) 神経変性(パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症) 4) 脱髄性疾患(多発性硬化症) 5) 認知症 6) 中枢神経系の感染症 7) 頭部と脊髄の外傷 8) 機能性疾患(てんかん、頭痛) 9) 二次的に意識障害・神経障害を起こす疾患 10) 腫瘍 2. 末梢神経系の疾患 1) ギラン・バレー症候群 3. 筋疾患・神経筋接合部疾患(筋ジストロフィー、重症筋無力症)	講義



5回目	終講試験	講義
<p>テキスト・参考文献</p> <p>1.系統看護学講座 脳・神経(成人看護学⑦) (医学書院)</p>		
<p>評価基準 学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。</p> <p>評価方法 筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う</p>		

領 域	専門基礎分野	履修時期	2年次前期
科 目 名 (单元名)	病理学Ⅳ 血液造血器系	時間数	5 時間
講 師	中山 俊之	実務経験 関連資格	医 師

<概要>

血液・造血器疾患は主に赤血球、白血球などの異常からなるものをいい全身的な症状を呈することが特徴である。新生物や血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害に分類される。原因や病気の成り立ちを中心としてまとめた総論と、それぞれの臓器に発生した原因や進行過程、診断、治療などの各論とといった2つの方向から理解する。血液・造血器官に生じる病気ごとの特徴を理解する。

<科目目標>

1. 血液造血器系の病因と病変の特徴について理解することができる。
2. 血液造血器疾患の病態、検査、治療、予防について理解することができる。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 血液の生理と造血のしくみ 1. 血液の成分と機能 2. 造血のしくみ II. 検査・診断と症候・病態生理 1. 病歴聴取と身体所見 2. 検査 3. 症候とその病態生理	講義
2回目	III. 疾患と治療の理解 1. 赤血球・白血球の異常 2. 造血器腫瘍 3. 出血性疾患	講義
3回目	終講試験	講義

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 血液・造血器(成人看護学④) 2016年第14版第2刷(医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門基礎分野	履修時期	2年次後期
科 目 名 (単元名)	病理学Ⅳ 皮膚科系	時間数	5 時間
講 師	甲斐 宜貴	実務経験 関連資格	医 師

<概要>

皮膚は、身体の最外層にあつて全身をおおう人体最大の臓器である。人体の最外層にある皮膚は、外界と直接接触するため、その影響を受けるとともに、体内からの影響も受ける。体外環境と体内環境の境目にある皮膚は、身体の恒常性を維持するために、さまざまな機能を担っている。これらのさまざまな機能を担っている皮膚に生じる疾患の特徴を学ぶ。

<科目目標>

1. 皮膚科系の病因と病変の特徴について理解する。
2. 皮膚科疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 皮膚の構造と機能 1. 皮膚の構造 2. 皮膚の機能 II. 症状とその病態生理 1. 発疹 2. 癢痒(かゆみ) 3. 皮膚の老化	講義
2回目	III. 検査と治療・処置 1. 診察・診断の流れ 2. 検査 3. 治療・処置 IV. 疾患の理解 1. 表在性皮膚疾患 1) 湿疹・皮膚炎群 2) 真皮・皮下脂肪織および皮膚付属器の疾患 3) 脈管系の異常による皮膚疾患 4) 物理・科学的皮膚障害 5) 腫瘍および色素異常症 6) 感染症 7) 全身性疾患に伴う皮膚病変	講義
3回目	終講試験	講義

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 呼吸器(成人看護学⑩) (医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門基礎分野	履修時期	2年次前期
科 目 名 (单元名)	病理学Ⅳ 眼科系	時間数	7時間
講 師	岡田 豊和	実務経験 関連資格	医師 別府市医師会立別府青山学校長

<概要>

人間は外界からの情報の多くを視機能により獲得している。そのため、視機能の障害により、身体的にも心理・社会的にもさまざまな問題がおこる。眼疾患によって患者や家族におこるさまざまな問題を理解したうえで、どのような援助をしたらよいか、そのためにどのような知識・技術が必要かを知ることが大切である。また、眼疾患にはどのような経過があるかそれぞれの経過ごとにどのような看護が求められるかを理解する必要がある。視機能の障害やその他の眼疾患が患者にどのような問題をもたらすかを学び患者・家族のニーズにあった適切な看護を提供できるようにする。

<科目目標>

1. 眼科系の病因と病変の特徴について理解することができる。
2. 眼科疾患の病態、検査、治療、予防について理解することができる。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 眼の構造と機能 1. 眼球 2. 視神経・視路 3. 眼球付属器 II. 症状とその病態生理 1. 視機能に関連した症状 2. 視機能に関連しない症状	講義
2回目	III. 検査と治療 1. 診察と診断の流れ 2. 検査 3. 治療	講義
3回目	IV. 疾患の理解 1. 機能の障害 2. 部位別の疾患 3. 外傷 4. 全身疾患との関連	講義
4回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 眼(成人看護学⑬) 2016年第12版第4刷(医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領域	専門基礎分野	履修時期	2年次前期
科目名 (单元名)	病理学Ⅳ 耳鼻科系	時間数	9時間
講師	重見 英男	実務経験 関連資格	医師

<概要>

耳鼻咽喉領域は環境との相互作用が成立する領域である。外から刺激を受容する感覚機能と、刺激を選択・調整して言葉や表情として反応していく自己表現機能とを備えている。この2つの機能により人間は環境と自己との境界を明確化でき、環境との相互作用のなかで、他者とのつながりを保ちながら自己の独自性を発揮していくことができる。患者の特徴を、感覚機能障害をはじめとする身体的変化について、またコミュニケーション障害による自己概念の変化や社会的活動の制限など、心理・社会的問題について学ぶ。

<科目目標>

1. 耳鼻科系の病因と病変の特徴について理解することができる。
2. 耳鼻科疾患の病態、検査、治療、予防について理解することができる。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	Ⅰ. 耳部 1. 解剖生理 2. 症状とその病態生理 1) 耳に現れる症状と病態生理 3. 検査と治療 1) 診察と診断の流れ 2) おもな検査 3) 耳の処置 4. 疾患の理解	講義
2回目	Ⅱ. 鼻部 1. 解剖生理 2. 症状とその病態生理 1) 鼻部に現れる症状と病態生理 3. 検査と治療 1) 診察と診断の流れ 2) おもな検査 3) 鼻の処置 4. 疾患の理解	講義
3回目	Ⅲ. 咽喉頭部 1. 解剖生理 2. 症状とその病態生理 1) 咽喉頭部に現れる症状と病態生理 3. 検査と治療 1) 診察と診断の流れ 2) おもな検査 3) 咽喉頭部の処置 4. 疾患の理解	講義
4回目	Ⅳ. 頸部 1. 解剖生理 2. 症状とその病態生理 1) 頸部に現れる症状と病態生理 3. 検査と治療 1) 診察と診断の流れ 2) おもな検査 3) 外科的治療 4. 疾患の理解	講義
5回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 耳鼻咽喉(成人看護学④) 2016年第12版第5刷(医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門基礎	履修時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	病理学V 内分泌代謝アレルギー系	時間数	17 時間
講 師	檜垣 直幸	実務経験 関連資格	医師

<概要>

内分泌代謝系は、特定の臓器の機能というより、身体の調節機構として全身の器官系の機能にまたがっていると同時に、それぞれの器官がフィードバック機構により相互に連携している。その障害は特定の器官に限定するものではなく、多くは全身性となり、多様な症状を呈する。急性期における的確な医療が必要であるとともに、慢性疾患として長期にわたる管理が必要となる。

近年の環境要因の変化により、アレルギー疾患に罹患する人口は急速に増加している。アレルギー疾患の症状は多種多様であり、慢性的に経過する場合や長期化する場合も多いが、重篤で死の危険性をはらむ場合もある。アレルゲンの多様化により、治療・予防にかかわる研究も進歩しており、つねに新たな知識を習得しておく必要がある。

看護の役割は、疾患の特殊性とその治療目的、および患者のもつ身体的・心理的・社会的問題をふまえて考えることが重要である。内分泌代謝系にかかわる器官とそこから分泌されるホルモンの特徴や調節機構、その異状による疾患の特徴について理解する。また、内分泌代謝系の良好なバランスを取り戻し、正常な身体機能が維持できることを目的に行われる治療のあり方について学習する。アレルギー疾患の動向を知り、起こりうる症状・状況について考える。

<科目目標>

1. 内分泌器官の構造と機能を述べることができる
2. 内分泌器官とホルモンの機能を述べることができる
3. 代謝の概要と機能を述べることができる
4. 免疫の仕組みとアレルギーについて述べるができる
5. 主な疾患・症状とその病態生理について述べるができる
6. 主な疾患の検査、治療について述べるができる

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 内分泌器官の構造と機能について 1. ホルモンの種類について 2. ホルモン分泌の調節について 3. 内分泌器官の構造とホルモンの機能について	講義
2回目	II. 代謝の概要と機能について 1. 消化と吸収のメカニズムについて 2. 栄養素の代謝について	講義
3回目	III. 免疫の仕組みとアレルギーについて 1. アレルギー反応の分類と仕組みについて 2. アレルゲンの種類について	講義
4回目	IV. 主な疾患・症状とその病態生理について 1. 内部環境調節機能の障害について 1) 内分泌系の疾患について ①下垂体の疾患 ②甲状腺の疾患 ③上皮小体(副甲状腺)の疾患 ④副腎の疾患 ⑤多発性内分泌腫瘍	講義

5回目	2. 栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害について 1) 栄養バランスの不均衡による疾患について ①糖尿病 ②脂質異常症(高脂血症) ③肥満症 ④高尿酸血症と痛風	講義
6回目	3. 免疫機能の障害について 1) アレルギー性疾患について ①花粉症(アレルギー性鼻炎) ②蕁麻疹 ③接触皮膚炎 2) 膠原病について ①全身性エリテマトーデス(SLE) ②関節リウマチ ③シェーグレン症候群	講義
7回目	V. 主な検査、治療について 1. 主な検査について 1) 内分泌疾患の検査 ①ホルモン負荷試験 ②ホルモン血中・尿中濃度測定検査 2) 代謝疾患の検査 ①糖負荷試験(OGTT) ②血糖測定 3) アレルギー・膠原病の検査 ①血液検査 ②スキントテスト ③穿刺	講義
8回目	2. 主な治療について 1) 内分泌疾患の治療 ①甲状腺ホルモン療法 ②甲状腺切除術 2) 代謝疾患の治療 ①食事療法 ②運動療法 ③薬物療法 3) アレルギー・膠原病の治療 ①減感作療法 ②免疫抑制薬 ③ステロイド療法	講義
9回目	終講試験	
<p>テキスト・参考文献</p> <p>1. 系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護6 第14版(医学書院)</p> <p>2. 系統看護学講座 アレルギー 膠原病 感染症 成人看護11 第14版(医学書院)</p>		
<p>評価基準</p> <p>学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。</p> <p>評価方法</p> <p>筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う</p>		



領 域	専門基礎	履修時期	2年次前期
科 目 名 (单元名)	病理学V・腎泌尿器系	時間数	9 時間
講 師	佐藤 文憲	実務経験 関連資格	医師

<概要>

腎・泌尿器系は、尿の生成・排出という機能を基本に持ち、体液の恒常性維持やタンパク代謝産物の排泄という身体にとって重要な働きを担っている。疾患の特徴として、慢性化しやすく、治療が長期にわたるものが多い。また、排尿障害・性功能障害には強い羞恥心ととまどいなどの心理反応を伴う。看護においては、疾患の特徴や病態の特徴を把握し、QOLを考慮した支援が求められる。腎・泌尿器系の看護師に求められる、疾患の病態に関する基本的知識と検査・治療について学習する。

<科目目標>

1. 腎泌尿器系の病因と病変の特徴について理解する。
2. 腎泌尿器系疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	腎泌尿器の解剖、処置、検査	講義
2回目	腎不全医療、前立腺肥大症とOAB、尿路結石	講義
3回目	泌尿器がん、外傷、尿路感染症	講義
4回目	ネフローゼ症候群、腎炎、、まとめ	講義
5回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 腎・泌尿器(成人看護学⑧) (医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門基礎分野	履修時期	2年次 後期
科 目 名 (单元名)	病理学Ⅴ 女性生殖器	時間数	9 時間
講 師	本多 和夫	実務経験 関連資格	医師

<概要>

解剖生理学で学んだ知識を想起しながら女性生殖器の形態と構造について学習する。また、性分化疾患、外陰・膣に起こりやすい各疾患、子宮・卵管・卵巣における各疾患、月経異常、更年期障害、不妊症、性感染症の各疾患など、女性生殖器に発生する疾患の病態を理解し、診断・検査・治療・予後について学習する。

<科目目標>

1. 女性生殖器の解剖生理を理解する。
2. 女性生殖器疾患の病態生理・検査・診断・治療・処置を理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 骨盤内の解剖と生理 II. 性分化疾患 III. 外陰の疾患 IV. 膣の疾患	講義
2回目	V. 子宮の疾患 1. 子宮頸がん 2. 子宮体がん 3. 子宮筋腫 4. 子宮内膜症 5. 絨毛性疾患	講義
3回目	VI. 卵管の疾患 VII. 卵巣の疾患 1. 卵巣の良性腫瘍 2. 卵巣の悪性腫瘍 VIII. 骨盤内炎症性疾患	講義
4回目	終講試験	講義

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 第14版第1刷 医学書院

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領域	専門基礎	履修時期	1年後期
科目名 (单元名)	微生物学	時間数	15時間
講師	李 康生	実務経験 関連資格	医師（元大分大学微生物学講師 平松学園教師

<概要>

文明化による新興・再興感染症の発生、多剤耐性菌の出現と蔓延に対し、医療関連感染制御の重要性が高まっている。医療施設には、感染源となる患者と、高齢者や基礎疾患を持つ感染しやすい別の患者とが同一空間にいるため、両者に接触する看護師には、医療従事者媒介感染をおこさないための知識と技術、そして細心の注意と遵守が求められる。

看護を業とする以上、病原微生物が問題となるのは当然であるが、最近では必ずしも病気を起こさない微生物も医学的に問題となる場合が比較的多いため、前提となる微生物学そのものをしっかりと理解することが必要である。また、全ての患者に対する標準予防策と、病原体に応じた感染経路別予防策を、確実に実践するための知識が必要である。

微生物の特徴と生体に及ぼす影響、および病原微生物の感染予防について学ぶ。

<科目目標>

1. 微生物の性質について、その種類と特徴を述べることができる
2. 病原微生物の構造と機能、それらが人体に及ぼす影響を述べることができる
3. 感染及び異物に対する、ヒトの生体反応について述べるができる
4. 感染症の予防、治療に関する基礎的知識を述べるができる

	内容	授業方法
1回目	I. ヒトと微生物の関わりについて 1. 微生物の役割や影響 2. 微生物学の歩み	講義
2回目	II. 微生物の種類と特徴について 1. 細菌の性質について 2. 真菌の性質について	講義
3回目	3. 原虫の性質について 4. ウィルスの性質について 5. 寄生虫の性質について	講義
4回目	III. 感染とその防御について 1. 感染と感染症について 2. 感染に対する生体防御機構について	講義
5回目	3. 感染源・感染経路から見た感染症について 4. 滅菌と消毒について	講義
6回目	5. 感染症の検査と診断について 6. 感染症の治療について	講義
7回目	7. 感染症の現状と対策について	講義
8回目	終講試	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 微生物学(疾病の成り立ちと回復の促進④) 第12版(医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領域	専門基礎分野	履修時期	1年次 前期
科目名 (単元名)	総合医療論	時間数	15時間
講師	①近藤 美穂子 ②日野 博之	実務経験 関連資格	①②病院における看護師経験
<p>&lt;概要&gt; 人間の健康を支援する看護、保健、医療について理解しそれらにかかわる諸問題について学びこれからの看護に活かす。</p> <p>&lt;科目目標(もしくは単元目標)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療と看護の関係性について考える。</li> <li>・社会の変化、医療技術の高度化・複雑化に伴う諸問題について考え、これから学ぶ看護に活かすことができる。</li> <li>・看護職が医療技術の進歩と新しい社会規範に即応する中でも人間心理の深い理解に裏打ちされた専門職であることを自覚し看護観を育む。</li> </ul>			
	内容	授業方法	
1回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職としての医師と看護師の特徴について考える。</li> <li>・パターンリズムについて考える</li> <li>・インフォームドコンセントについて事例を通して理解する。</li> </ul>	課題学習	
2回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、医療観の変遷について知る。</li> <li>・私たちの生活と健康について考えてみる。 もしも病気やけがをしたら</li> </ul>	講義 グループワーク	
3回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術の進歩と現代医療の最前線* 人工透析について 透析患者の看護</li> </ul>	講義 グループワーク	
4回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命について、医療従事者・患者、家族の立場で考える。</li> <li>・先端医療技術について、その概要を知る。</li> <li>・がん診断、移植医療、人工臓器などの概要を知り、医療の在り方や看護職としての関わり方を考える。</li> <li>・先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマについて考える。</li> </ul>	講義 グループワーク	
5回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療を見つめなおす新たな視点 都市部と地方の医療の現状を知り、これからの医療、看護について今の時点での自らの考えを述べることができる。</li> </ul>	講義 グループワーク DVD	
6回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療福祉の新たな考え方をしり、今度の看護の学びに活かす。</li> <li>・疫学の概要について理解することができる。</li> </ul>	講義	
7回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携 継続医療、看護について理解する。</li> </ul>	講義	
<p>テキスト 医学書院 系統看護学講座 総合医療論</p>			
<p>評価基準 学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。</p> <p>評価方法 筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。</p>			

領 域	専門基礎	履修時期	1年後期
科目名 (单元名)	公衆衛生学	時間数	15時間
講 師	吉川 政治	実務経験 関連資格	環境計量士 ・(元) 大分県庁職員 大分大学 講師

<概要>

公衆衛生は、環境や行動を社会的に整えてみんなの健康を守る、社会防衛機能としての保健医療活動であり、公衆衛生学は、そのための技術と科学的根拠を提供する学術である。

現代社会・環境中には、多くの健康・福祉・環境課題がある。看護師は、一般市民の健康の保持増進に関する考え方とその変遷、物理・化学的環境および社会的環境の健康への影響について理解し、地域で生活する人々の健康の保持・増進、健康回復を考えることが必要である。そのため、人々の健康、取り巻く環境、身体的・精神的・心理的・社会的影響について学び、集団レベルでの健康の増進と疾病の予防を考えるとともに、地域における看護職の役割を考える。

また、保健統計の正しい読み取り方を学び、公衆衛生に関する統計情報を理解する。

<科目目標>

1. 公衆衛生の概念を述べることができる
2. 社会の変化と、健康との関連を述べることができる
3. 現代社会・環境中に、どのような健康・福祉・環境課題があるかを述べることができる
4. 公衆衛生に関連する統計情報の読み方を、理解することができる
5. 地域における看護職の役割について考えることができる

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 公衆衛生の概要について 1. 公衆衛生の概念について 2. 健康の概念について 3. 公衆衛生の歴史について	講義
2回目	II. 健康と環境、疫学的方法について 1. 健康と環境について 2. 集団の健康被害の理解について	講義
3回目	3. 集団検診について 4. 疫学的因果関係について 5. 臨床疫学とエビデンスについて	講義
4回目	III. 健康指標と予防について 1. 健康に関連した指標について 2. 感染症とその予防について	講義
5回目	IV. 生活環境の保全について 1. 地球環境について 2. 食品管理および家庭用品について 3. ごみ・廃棄物について 4. 住環境について	講義
6回目	VI. 産業保健について 1. 職場の健康管理について	講義
7回目	VII. 衛生統計について 1. 保健統計の読み方について 2. 公衆衛生に関する統計情報について	講義
8回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. わかりやすい 公衆衛生学 第4版(ヌーヴェルヒロカワ)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門基礎	履修時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	関係法規	時間数	15 時間
講 師	甲斐 慶子	実務経験 関連資格	(元) 別府市健康推進課 保健師

<概要>

看護はじめ医療という仕事は、人間の生命に直接関係するだけに、医療に携わる人々の資格や業務内容が法律で厳格に規定されている。また、少子高齢化が進み、社会の変革と制度の改革が進む中、医療は、関連施策と連携を取り総合的に推進されることが求められている。そこで、看護に携わる者が、国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するためには、わが国の保健医療福祉に関する諸制度とそれを規定する諸法令を理解しておくことが必要である。

看護の質の向上のために、保健師助産師看護師法をはじめ医事や保健衛生、社会福祉などの関係法令を、単に知識として学ぶだけではなく、看護との関係も含めて学習し、看護師としての法的責任を自覚する

<科目目標>

1. わが国の保健医療福祉に関する諸制度について述べられる
2. 保健医療福祉に関する諸制度を規定する諸法令について述べられる
3. 看護関係法令を学ぶ意義を述べられる

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 法の概念について 1. 法の概念と分類 2. 衛生法 3. 厚生行政のしくみ	講義
2回目	II. 看護法 1. 保健師助産師看護師法 2. 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義
3回目	III. 医事法 1. 医師法・医療法 2. 医療関係資格法 3. 保健医療福祉資格法 4. 医療を支える法 5. 人の死に関する法 6. 緊急時の看護・医療に関する法	講義
4回目	IV. 保健衛生法 1. 共通保険法 2. 分野別保健法 3. 感染症に関する法 4. 食品に関する法	講義
5回目	V. 薬務法 1. 薬事一般に関する法律 2. 人などの組織を用いた医療関連法 3. 薬害被害者の救済等 4. 麻薬・毒物等 VI. 環境衛生法 1. 営業 2. 環境整備	講義

6回目	<p>VII. 社会保険法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 費用保障</li> <li>2. 年金</li> <li>3. 手当</li> </ol>	講義
7回目	<p>VIII. 福祉法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉の基盤</li> <li>2. 児童分野</li> <li>3. 高齢分野</li> <li>4. 障がい分野</li> </ol> <p>IX. 労働法と社会基盤整備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 労働法</li> <li>2. 社会基盤整備等</li> </ol> <p>X. 環境法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境保全の基本法</li> <li>2. 公害の防止法</li> <li>3. 自然保護法</li> </ol>	講義
8回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令 第48版(医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う



領 域	専門基礎	履修時期	2年後期
科目名 (单元名)	社会福祉	時間数	15時間
講 師	時枝 琢二	実務経験 関連資格	社会福祉士 精神保健福祉士

<概要>

医療は、時代とともに大きく変わっていく。ここ数年、社会福祉の分野でも、法律・制度改正が多く行われている。さらに、介護保険の導入を契機に、福祉・保健・医療の連携と融合がより強調されるようになってきている。

看護は、福祉の生活支援、介護の領域と重なるところが大きい。地域での保健・医療・福祉サービスを、住民にとってより効率的で質の高いものにしていくためには、医療職と福祉職との協力が欠かせない。そのため、人々の健康や暮らしを支え、生活の営みをより良い状態に保つために、常に法律や制度に注意を払い、時代とともにある看護を学習する姿勢が求められている。そこで、社会保障の概念や制度体系、関連する施策について学習する。

<科目目標>

1. 社会保障の概念について述べることができる。
2. わが国の社会保障制度の体系と、関連する施策について述べるができる。
3. 社会福祉の方法とその課題について考えることができる。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 社会保障の概要について 1. 日本の保健医療福祉活動の基本方向について	講義
2回目	II. 社会保険制度について 1. 社会保険の変遷について 2. 医療保険制度について	講義
3回目	3. 介護保険制度について 4. 年金制度について 5. その他の社会保険制度について	講義
4回目	III. 社会福祉に関する法律の理念と施策について 1. 社会福祉の理念と変遷について 2. 生活保護法と施策について 3. 障がい者(児)にかかわる方と施策について	講義
5回目	4. 児童にかかわる方と施策について 5. 高齢者にかかわる方と施策について 6. その他の施策について	講義
6回目	IV. 社会福祉行政について 1. 保健福祉計画について 2. 社会福祉の民間活動について	講義
7回目	3. 福祉の行政機関と施策について 4. 老人保健福祉行政の展開について	講義
8回目	終講試験	筆記試験

テキスト・参考文献

1. 新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉(第8版) メヂカルフレンド社

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

# 専門分野 I

領 域	専門分野 I	履修時期	1年次前期																																										
科 目 名 (単元名)	基礎看護学概論	時間数	30 時間																																										
講 師	①近藤 美穂子 ②貞清 瑞枝	実務経験 関連資格	①②病院における看護師経験 ①②別府市医師会立別府青山看護学校専任教員																																										
<p>&lt;概要&gt; 看護の概念を理解し、看護の役割を認識し、対象の理解と看護の実践の基礎的能力を養い看護学の土台とする。</p> <p>&lt;科目目標&gt; 看護の概念や健康・環境の概念および看護の対象である人間を全人的・総合的に理解し、看護の機能・役割を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>1. Introduction ～看護を学ぶ前に～ 2. 自己の看護を見つめる</td> <td>講義 個人ワーク</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>1. 自己の看護を見つめる 2. 看護の歴史</td> <td>発表 講義</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>1. 人と環境 2. 健康と看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>1. 保健医療システムと看護 2. 看護の機能と業務</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>1. 看護の機能と業務 2. 看護活動</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>1. 看護研究</td> <td>講義 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>1. 看護研究</td> <td>講義 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> <td>1. 看護倫理 ・看護倫理とは</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9回目</td> <td>1. 看護倫理 ・倫理的意味決定のプロセス</td> <td>グループワーク</td> </tr> <tr> <td>10回目</td> <td>1. 看護倫理 ・倫理的意味決定のプロセス</td> <td>グループワーク</td> </tr> <tr> <td>11回目</td> <td>1. 看護倫理</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12回目</td> <td>1. 看護の探求</td> <td>グループワーク</td> </tr> <tr> <td>13回目</td> <td>1. 看護の探求</td> <td>グループワーク</td> </tr> </tbody> </table>					内容	授業方法	1回目	1. Introduction ～看護を学ぶ前に～ 2. 自己の看護を見つめる	講義 個人ワーク	2回目	1. 自己の看護を見つめる 2. 看護の歴史	発表 講義	3回目	1. 人と環境 2. 健康と看護	講義	4回目	1. 保健医療システムと看護 2. 看護の機能と業務	講義	5回目	1. 看護の機能と業務 2. 看護活動	講義	6回目	1. 看護研究	講義 グループワーク	7回目	1. 看護研究	講義 グループワーク	8回目	1. 看護倫理 ・看護倫理とは	講義	9回目	1. 看護倫理 ・倫理的意味決定のプロセス	グループワーク	10回目	1. 看護倫理 ・倫理的意味決定のプロセス	グループワーク	11回目	1. 看護倫理	講義	12回目	1. 看護の探求	グループワーク	13回目	1. 看護の探求	グループワーク
	内容	授業方法																																											
1回目	1. Introduction ～看護を学ぶ前に～ 2. 自己の看護を見つめる	講義 個人ワーク																																											
2回目	1. 自己の看護を見つめる 2. 看護の歴史	発表 講義																																											
3回目	1. 人と環境 2. 健康と看護	講義																																											
4回目	1. 保健医療システムと看護 2. 看護の機能と業務	講義																																											
5回目	1. 看護の機能と業務 2. 看護活動	講義																																											
6回目	1. 看護研究	講義 グループワーク																																											
7回目	1. 看護研究	講義 グループワーク																																											
8回目	1. 看護倫理 ・看護倫理とは	講義																																											
9回目	1. 看護倫理 ・倫理的意味決定のプロセス	グループワーク																																											
10回目	1. 看護倫理 ・倫理的意味決定のプロセス	グループワーク																																											
11回目	1. 看護倫理	講義																																											
12回目	1. 看護の探求	グループワーク																																											
13回目	1. 看護の探求	グループワーク																																											

14 回目	1. 看護の探求	グループワーク
15 回目	単位認定試験	

テキスト・参考文献

1. 松木光子 編集 『看護学概論 看護とは・看護学とは』 ヌーヴェルヒロカワ
2. 山口瑞穂子・石川ふみよ 編集 『ひとりで学べる看護研究』 照林社
3. ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます・小玉香津子 訳 『看護の基本となるもの』 日本看護協会出版社
4. 長谷川浩・藤枝知子 訳 『トラベルビー人間対人間の看護』 医学書院

評価基準

学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。

領 域	専門分野 I	履修時期	1年次前期
科 目 名 (単元名)	基礎看護技術 I	時間数	30 時間
講 師	戸崎 由布子 川野 明子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校専任教員
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>本科目では“生命活動を支える援助技術”“治療・処置に伴う援助技術”に代表される、診療の補助技術を学ぶ。診療の補助技術は対象への侵襲を伴う技術が多くを占め、学内ではもちろんのこと、実習においても医療安全の観点から経験することが難しい。講義に加え演習を多く取り入れ、具体的な患者を想定したうえで、安全・安楽を基盤にして原理・原則にもとづいた正しい看護技術を学んでいく。</p> <p>&lt;科目目標&gt;</p> <p>科学的根拠にもとづいた、安全かつ安楽な看護技術を習得する。</p>			
	内容	授業方法	
1回目	1. 看護技術の概念 2. 人間関係を成立・発展させるための技術	講義	
2回目	1. 感染予防を推進する技術	講義 演習	
3回目	1. 感染予防を推進する技術 <演習> 手洗い、滅菌物の取扱い、使用済器材の取扱い、個人防護用具の着脱、感染性廃棄物の取扱い	演習	
4回目	1. 体温を調節する技術 2. 安楽かつ快適さを確保する技術	講義	
5回目	1. 呼吸を楽にする技術	講義 演習	
6回目	1. 呼吸を楽にする技術 <演習> 体位による呼吸の変化、排痰法、体位ドレナージ、酸素療法、吸入、口腔内吸引、気道内吸引	演習	
7回目	1. 治療・処置に伴う援助技術 1) 検査とは 2) 身体計測 3) X線単純撮影、超音波検査、CT、MRI、内視鏡、心電図、尿・便・喀痰、血液検査、穿刺法 4) 治療処置	講義	
8回目	1. 治療・検査に伴う援助技術 <演習> 静脈血採血	演習	
9回目	1. 治療・処置に伴う援助技術 <演習> 12 誘導心電図、血糖測定	演習	
10回目	1. 治療・処置に伴う援助技術 <演習> 12 誘導心電図、血糖測定	演習	

11回目	1. 与薬・輸血を安全に行う技術	講義
12回目	1. 与薬・輸血を安全に行う技術 <演習> 注射の準備、筋肉内注射、皮下注射、シリンジポンプ・輸液ポンプ	演習
13回目	1. 与薬・輸血を安全に行う技術 <演習> 注射の準備、筋肉内注射、皮下注射、シリンジポンプ・輸液ポンプ	演習
14回目	まとめ	講義
15回目	筆記試験	

テキスト・参考文献

- 『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』メディカ出版
- 任和子・秋山智弥 編集『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術』医学書院

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

- 筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	専門分野 I	履修時期	1年次前期
科 目 名 (単元名)	基礎看護技術 II	時間数	60 時間
講 師	①江藤 たつみ ②戸崎 由布子 ③岩坪 さより	実務経験 関連資格	①②③病院における看護師経験 ①②③別府市医師会立別府青山看護学校専任教員

<概要>

看護実践に共通する基本技術を理解し、対象の日常生活行動を充足するために、対象に合った看護を提供するための基本的技術を学ぶ。

<科目目標>

科学的根拠にもとづいた、安全・安楽・自立を考えた看護技術を習得する。

<内容>

	日時	主題	方法
	4/8(月)	看護技術演習の進め方について	課題提示
1	4/9(火)	活動・運動・姿勢・体位の援助技術	G 演習
2	4/15(月)		G 発表
3	4/16(火)		講義
4	4/16(火)		G 演習、講義
5	4/24(水)	バイタルサインを観察する技術 フィジカルアセスメントの技術	G 演習
6	4/24(水)		G 発表
7	5/8(水)		講義
8	5/15(水)		G 演習
9	5/15(水)		
10	5/28(火)		
11	5/28(火)		講義
12	5/29(水)	環境を調整する技術	G 演習
13	6/4(火)		G 発表
14	6/4(火)		講義
15	6/4(火)	排泄の援助技術	G 演習
16	6/5(水)		G 発表
17	6/5(水)		講義
18	6/10(月)		G 演習、講義
19	6/11(火)	食事・栄養の援助技術	講義、演習
20	6/11(火)		G 演習
21	6/18(火)		G 発表
22	6/18(火)		講義
23	7/1(月)	清潔、衣生活の援助技術	G 演習
24	7/2(火)		
25	7/2(火)		
26	7/9(火)		G 発表
27	7/9(火)		講義
28	7/10(水)	休息・睡眠の援助技術／創傷管理の技術(褥瘡)	講義
29	7/16(火)	包帯法	G 演習、講義
30	7/17(水)	終末を迎えた後の援助技術	講義、演習
31	9 月	筆記試験	試験

テキスト・参考文献

1. 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)
2. 初めてのフィジカルアセスメント(メヂカルフレンド社)
3. 基礎・臨床看護技術(医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。



領 域	専門分野 I	履修時期	1年次後期
科 目 名	看護過程	時間数	4 5 時間
講 師	戸崎 由布子 川野 明子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校専任教員

<概要>

看護過程は、対象が健康な生活を送るにあたり、障害となっているさまざまな問題を解決するために、看護の科学的思考としての理論的枠組みを活用しつつ、個や集団に適用される技術である。対象の、健康上の問題や生活上のニーズを明らかにし適切な援助を提供する方法論である看護過程を理解し、具体的な問題解決のプロセスを学習する。

<科目目標>

1. 対象の健康に対する看護上の問題を判断し、理論を用い問題解決の過程を学び、
2. 看護過程を展開する方法を修得する

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 看護過程の概要 1. 看護過程の定義 2. 看護過程の構成要素と関係 3. 看護過程と看護診断	講義他
2回目～ 11回目	I. 事例紹介 II. ペーパーシュミレーション 臨地実習(実習前日～1週間)を想定した看護過程の展開をする 1. 事前学習 2. 情報収集 1) 基礎情報 3. アセスメント 1) ゴードンの機能的健康パターン 2) 関連図 3) 問題リスト 4. 看護計画の立案	演習 グループ ワーク
12回目～ 19回目	II. ペーパーシュミレーション 臨地実習(実習2週間～退院)を想定した看護過程の展開をする 1. 看護計画に基づいた実施 1) 毎日の記録 2. 評価	
20回目～ 22回目	I. 事例紹介(2例目) 1. 事前学習 2. 情報収集 1) 基礎情報 3. アセスメント 1) ゴードンの機能的健康パターン 2) 関連図	

23 回目	試験	試験
<p>テキスト・参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. ヘンダーソン・ゴードン考えに基づく実践看護アセスメント(ヌーベルヒロカワ)</li><li>2. 看護過程学習ガイド 思考プロセスからのアプローチ (Gakken)</li></ol>		
<p>評価基準</p> <p>学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。</p> <p>評価方法</p> <p>筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。</p>		

領域	専門分野 I	履修時期	1年次前期																					
科目名 (单元名)	臨床看護学総論	時間数	30 時間																					
講師	岡部 裕美	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校専任教員																					
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>臨床看護総論は、看護が提供される場で、看護の対象となる人々と実際に関わりながら看護実践を行う(臨床看護)ための全体を総括している。基本的知識や技術が実践の中でどのように統合されているか、看護の対象者の状況(ライフスタイル、場、健康状態、症状、治療)に即して理解する。</p> <p>&lt;科目目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康障害のある対象とその家族の心理を理解する。</li> <li>健康障害時の各経過・主要症状の特徴と患者の心理、援助方法を理解する。</li> </ol> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>I. 健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護 1. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 1) 健康のとらえ方 2) 健康の諸相</td> <td>講義 個人ワーク</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>3) ライフサイクルと発達課題 (1) 胎児期 (2) 新生児期・乳児期 (3) 幼児期 (4) 学童期 (5) 思春期 (6) 成人期 (7) 老年期</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>4) ニーズをもつ存在 (1) 基本的欲求 (2) 社会的欲求</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>2. 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 1) 家族の機能 2) 家族形態の変化</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>3. 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 1) 主な看護活動展開の場と看護の機能 (1) 医療提供施設 (2) 地域・在宅での看護 2) 生活者としての存在</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>II. 健康状態の経過に基づく看護 1. 健康状態と看護 1) 健康の概念 2) 看護の定義 2. 健康の維持・増進をめざす看護 1) 生活習慣とセルフケア 2) ヘルスプロモーション</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>					内容	授業方法	1回目	I. 健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護 1. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 1) 健康のとらえ方 2) 健康の諸相	講義 個人ワーク	2回目	3) ライフサイクルと発達課題 (1) 胎児期 (2) 新生児期・乳児期 (3) 幼児期 (4) 学童期 (5) 思春期 (6) 成人期 (7) 老年期	講義	3回目	4) ニーズをもつ存在 (1) 基本的欲求 (2) 社会的欲求	講義	4回目	2. 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 1) 家族の機能 2) 家族形態の変化	講義	5回目	3. 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 1) 主な看護活動展開の場と看護の機能 (1) 医療提供施設 (2) 地域・在宅での看護 2) 生活者としての存在	講義	6回目	II. 健康状態の経過に基づく看護 1. 健康状態と看護 1) 健康の概念 2) 看護の定義 2. 健康の維持・増進をめざす看護 1) 生活習慣とセルフケア 2) ヘルスプロモーション	講義
	内容	授業方法																						
1回目	I. 健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護 1. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 1) 健康のとらえ方 2) 健康の諸相	講義 個人ワーク																						
2回目	3) ライフサイクルと発達課題 (1) 胎児期 (2) 新生児期・乳児期 (3) 幼児期 (4) 学童期 (5) 思春期 (6) 成人期 (7) 老年期	講義																						
3回目	4) ニーズをもつ存在 (1) 基本的欲求 (2) 社会的欲求	講義																						
4回目	2. 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 1) 家族の機能 2) 家族形態の変化	講義																						
5回目	3. 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 1) 主な看護活動展開の場と看護の機能 (1) 医療提供施設 (2) 地域・在宅での看護 2) 生活者としての存在	講義																						
6回目	II. 健康状態の経過に基づく看護 1. 健康状態と看護 1) 健康の概念 2) 看護の定義 2. 健康の維持・増進をめざす看護 1) 生活習慣とセルフケア 2) ヘルスプロモーション	講義																						

7回目	<p>2. 急性期</p> <p>1) 急性・重症患者と家族の特徴</p> <p>2) 急性・重症患者の看護</p> <p>3. 慢性期</p> <p>1) 慢性疾患の特徴とその看護</p> <p>2) セルフケア・自己管理支援</p> <p>3) 社会的支援の獲得への援助</p>	<p>講義</p> <p>グループワーク</p>
8回目	<p>4. リハビリテーション期</p> <p>1) リハビリテーションの特徴とその看護</p> <p>2) 障害に対する受容と適応への援助</p> <p>3) 社会参加への援助</p> <p>5. 終末期</p> <p>1) 終末期にある患者の看護</p>	<p>講義</p> <p>グループワーク</p>
9回目	<p>Ⅲ. 主要な症状を示す対象者への看護</p> <p>1. 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>1) 呼吸困難</p> <p>2) 咳嗽・喀痰</p> <p>3) チアノーゼ</p> <p>4) 喀血</p>	<p>講義</p> <p>グループワーク</p>
10回目	<p>2. 循環に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>1) 意識障害</p> <p>2) ショック</p> <p>3) 胸痛</p> <p>4) 不整脈</p> <p>5) 浮腫</p> <p>6) 貧血</p>	<p>講義</p> <p>グループワーク</p>
11回目	<p>3. 栄養や代謝に関連した症状を示す対象者への看護</p> <p>1) 代謝機能障害の原因と程度</p> <p>2) 栄養代謝機能障害がもたらす生命・生活への影響</p> <p>3) 代謝機能障害による症状の把握と援助</p> <p>4. 排泄に関連した症状を示す対象者への看護</p> <p>1) 蓄尿・排尿機能障害の原因と程度</p> <p>2) 排泄機能障害がもたらす生命・生活への影響の把握</p> <p>3) 蓄尿・排尿機能障害による症状の把握と援助</p> <p>4) 消化管機能障害の原因と程度</p> <p>5) 消化・吸収機能障害がもたらす生命・生活への影響</p> <p>6) 消化・吸収機能障害による症状の把握と援助</p>	<p>講義</p> <p>グループワーク</p>
12回目	<p>5. 活動・休息に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>1) 姿勢・移動機能障害の原因と程度</p> <p>2) 姿勢・移動機能障害による症状</p> <p>3) 姿勢・移動機能障害による症状の把握と援助</p> <p>4) 休息・睡眠の意義</p> <p>5) 休息・睡眠に影響する要因</p> <p>6) 休息・睡眠のアセスメント</p> <p>7) 休息・睡眠を促す援助</p>	<p>講義</p> <p>グループワーク</p>

13 回目	6. 認知・知覚に関連する症状を示す対象への看護 1) 感覚の異常 7. コーピングに関連する症状を示す対象の看護 8. 安全や生体防御、安楽に関連する症状を示す対象の看護 1) 高体温・低体温 2) 脱水 3) 嘔気・嘔吐	講義 グループワーク
14 回目	IV. 治療・処置を受ける対象者への看護 1. 輸液療法を受ける対象者への看護 1) 経静脈栄養法 2) 輸液管理 2. 化学療法を受ける対象者への看護 3. 放射線療法を受ける対象者への看護 4. 手術を受ける対象者への看護 5. 集中治療を受ける対象者への看護 6. 創傷処置を受ける対象者への看護 7. 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護	講義 グループワーク
15 回目	終講時 筆記試験	
テキスト・参考文献 1. 臨床看護総論(医学書院) 2. 成人看護学 周手術期看護論(ヌーベルヒロカワ)		
評価基準 学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 評価方法 筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		

# 専門分野Ⅱ

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	1 年次後期
科 目 名	成人看護学概論	時間数	30 時間
講 師	服平 敏枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校専任教員
< 概要 > 成人期は幅広く、人口層が厚く、社会の中でも重要な役割を担っている人々であることから、この時期の人々の健康問題を扱う成人看護学は重要な位置を占めていく。本科目では、成人看護学の基本的な理解と現状理解をし、成人期の健康と看護援助について、看護モデルや看護理論を用いて理解する。			No.1
< 科目目標(もしくは単元目標) > 1. ライフサイクルにおける成人期にある対象を成長、成熟、発達から考察し、成人各期の特性を理解する。 2. 成人期における健康の維持増進のための保健活動について学ぶ。 3. 成人のライフスタイルと健康問題を理解する。 4. 成人を看護するために必要な理論と方法を学ぶ。 5. 成人期にある対象とのコミュニケーションについて理解する。			
< 内容 >			
	内容	授業方法	
1回目	I. 成人看護学の概念と構成 1. 看護理論の応用 2. 成人期の対象論 1) 成人の生涯発達の特徴 2) 成人と生活	講義	
2回目	3.成人期の援助論	講義	
3回目	II. 成人看護学の特性 1. 成人保健の動向 1) 生活習慣に関連する健康問題 2) 職業に関連する健康問題 3) 生活ストレスに関連する健康問題	講義	
4回目	2. ライフサイクルの中での成人の位置づけと意義	講義	
5回目	3.成人の発達段階 1) ライフサイクルと発達課題 4. 身体的・精神的、社会的、スピリチュアルに重要な時期	講義	
6回目	III. 保健・医療・福祉における動向と課題 1. 成人期における健康障害の特徴 2. 一次、二次、三次予防の現状と対応	講義	
7回目	IV. 倫理と看護者の役割 1. 看護における倫理と今日的課題	講義	

8回目	2. 看護者の倫理上の意思決定の基準 1) 看護職の役割 2) 看護の倫理綱領 3. 倫理的問題の解決過程	講義
9回目	V. 健康レベルにおける枠組み	講義
10回目	VI. 成人看護に使用される理論・モデル 1. 健康の定義 2. ヘルスプロモーションを必要とする対象	講義
11回目	3. 治療を必要とする対象 1) 急激な身体侵襲により急性期にある患者 2) 慢性的な経過をたどる健康障害の患者 (1) 慢性疾患の特徴とその看護 (2) セルフケア・自己管理支援 (3) 社会的支援の獲得への援助 3) リハビリテーションを必要とする患者 (1) リハビリテーションの特徴とその看護 (2) 障害に対する受容と適応への援助 (3) 社会参加への援助	グループワーク 講義
12回目	4. 健康の再構築への支援を必要としている対象 5. ターミナル期の援助を必要としている対象 1) 終末期にある患者への援助	グループワーク 講義
13回目	VII. 成人におけるヘルスアセスメント	個人ワーク グループワーク 講義
14回目	VIII. 継続看護と健康教育	講義
15回目	筆記試験	筆記試験

テキスト・参考文献

1. 老年看護学 概論と看護の実践 第5版 (ヌーベルヒロカワ)
2. 老年看護技術 最期までその人らしく生きることを支援する (南江堂)
3. 老年看護学 高齢者の健康生活を支える看護 (医歯薬出版株式会社)
4. 高齢者看護すぐに実践トータルナビ メディカ出版
5. 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。



領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次 前期
科 目 名 (単元名)	成人看護の方法Ⅰ (消化器系外科)	時間数	7時間
講 師	桑田 めぐみ	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

消化器系は、食事摂取、消化・吸収、代謝、排泄といったさまざまな機能を果たしている。そのため手術部位、原因疾患の状況、術式、患者の手術前の身体状態などによって、手術侵襲の大きさや手術後の状況はさまざまである。手術前から手術後、退院に向け、日常生活の管理が主体的に患者が行なえ、治療の継続と緊急時の対処が自身で行えるよう援助することが重要である。

<科目目標>

1. 消化器疾患の病態理解し、患者や家族の不安を緩和して最良の状態です手術に臨む看護を行い、手術後は順調に回復できるよう援助し、退院後の生活を見据えた幅広い看護について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I、消化器疾患を持つ対象の外科系看護 1.消化器疾患患者の特徴 2.看護の役割	講義
2回目	3. 急性期患者の看護 大腸がん、イレウス、胃がん、食道がん	講義
3回目	4. 手術を受ける患者の入院前から退院、退院後の看護 5. ストマケアについて	講義
4回目	終講試験	

テキスト・参考文献

- ・医学書院 系統看護学講座 消化器
- ・ヌーベルヒロカワ 周手術期
- ・医歯薬出版 周手術期看護1 . 2

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次 前期
科 目 名 (单元名)	成人看護の方法Ⅰ (消化器内科系)	時間数	9時間
講 師	山田 里美	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

消化器疾患は、日常生活行動や食生活、ライフスタイルなどによることが多く、社会環境の変化によっても疾病構造は変わってくる。疾患によっては完治することが難しく、治療が長期にわたったり、障害をかかえたまま、日常生活を送ることもある。基本的欲求である「食」や「排泄」に関する疾患が多いため、疾病理解とともに 日常生活、社会生活まで考えた支援が必要となる。また、家族をはじめ周囲の理解と協力も必要であるため、看護の役割も範囲が広い。

<科目目標>

1. 消化器疾患の病態理解と、身体面、精神面、社会面への看護について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I.内科的治療をしている、消化器疾患を持つ対象の看護 1. 症状に対する看護 嚥下障害 おくび むねやけ 吐き気 腹痛 吐血 下血 下痢 便秘 腹部膨満 食欲不振 黄疸 意識障害(肝性脳症)	講義
2回目	2. 検査を受ける対象の看護 造影検査、内視鏡、肝生検、肝シンチグラフィー 腹部超音波検査	講義
3回目	3. 治療を受ける患者の看護 薬物療法を受ける患者の看護 化学療法を受ける患者の看護 栄養療法、食事療法を受ける患者の看護 放射線療法を受ける患者の看護	講義
4回目	4. 疾患を持つ患者の看護 食道疾患患者の看護 胃十二指腸疾患患者の看護 腸・腹膜疾患患者の看護 肝臓・胆嚢疾患患者の看護 膵臓疾患患者の看護	講義
5回目	終講試験	

テキスト・参考文献

- ・医学書院 系統看護学講座 消化器・

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次前期
科 目 名	成人看護の方法Ⅰ (周手術期看護過程)	時間数	15 時間
講 師	服平 敏枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校教員

<概要>

急激に身体的変化をする患者の生命維持および周手術期にある患者の手術侵襲による生体反応を理解し、患者の回復の促進を図るための看護について考える。また、周手術期にある事例の看護の展開方法について学ぶ。

<科目目標>

急性期における生体侵襲による生命の危機状態にある対象の看護過程を展開することができる。

1. 手術侵襲が対象に及ぼす身体的・社会的影響について考え、健康回復へ向けての援助を考える。
2. 対象が自ら健康回復のために主体的に治療過程に参加できる方法を考える。
3. 対象とその家族を尊重し、周手術期における対象とその家族の心理面について考える。

	内容	授業方法
1回目	周手術期看護の考え方 手術侵襲について 周手術期看護過程の説明(事例紹介) 【術前の看護】 術前検査について	講義 DVD 学習 個人ワーク
2回目	術前オリエンテーション 術前訓練 アセスメントの視点および術前アセスメント 術前の患者の心理 周手術期経過表について 標準看護計画について	課題①② ※看護技術経験録
3回目	対象の全体像(関連図)	個人ワーク
4回目	対象の全体像(関連図) 【術中の看護】 術中アセスメントについて	講義 DVD 学習
5回目	【術後の看護】 術後ベッドの作成 術直後の観察	演習 ※白衣 課題②③
6回目	【術後の看護】 術後合併症	講義 演習
7回目	術後アセスメントについて 術後の回復過程と看護	ワークシート
8回目	筆記試験	試験

テキスト・参考文献

成人看護学 周手術期看護論 第3版 ヌーベルヒロカワ  
講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護1、2 第3版 医歯薬出版  
周術期看護 安全・安楽な看護の実践 改訂版 インターメディアカ

評価基準

学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

評価方法

出席状況・受講態度・課題(40 点)、学科試験(60 点)、合計 100 点、60 点未満は再試験を行う。

領域	専門分野	履修時期	2年次後期
科目名 (单元名)	成人看護の方法Ⅱ 皮膚科系	時間数	5 時間
講師	阿部 明美	実務経験 関連資格	病院における看護師

<概要>

皮膚は、身体の最外層にあつて全身をおおう人体最大の臓器である。人体の最外層にある皮膚は、外界と直接接触するため、その影響を受けるとともに、体内からの影響も受ける。体外環境と体内環境の境目にある皮膚は、身体の恒常性を維持するために、さまざまな機能を担っている。これらのさまざまな機能を担っている皮膚に生じる疾患の特徴および看護の役割を学ぶ。

<科目目標>

	内容	授業方法
1回目	I. 疾患の経過と看護 II. スキンケア III. 症状に対する看護 1. 痒みのある患者の看護 2. 痛みのある患者の看護 3. 鱗屑・落屑のある患者の看護 4. 分泌物のある患者の看護 5. 熱感・悪寒のある患者の看護 6. ボディイメージの変化のある患者の看護 IV. 検査を受ける患者の看護 1. アレルギー検査を受ける患者の看護 2. 顕微鏡検査を受ける患者の看護 3. 病理組織検査を受ける患者の看護	講義
2回目	V. 治療・処置を受ける患者の看護 1. 内服療法を受ける患者の看護 2. 外用療法を受ける患者の看護 3. 手術療法を受ける患者の看護 4. 光線療法を受ける患者の看護 5. レーザー療法を受ける患者の看護 6. その他の局所療法を受ける患者の看護 VI. 疾患を持つ患者の看護 1. アトピー性皮膚炎患者の看護 2. 尋常性乾癬患者の看護 3. 難治性潰瘍看護 4. 熱傷患者の看護 5. 外陰部パジェット病患者の看護 6. 悪性黒色腫患者の看護 7. 皮膚悪性リンパ腫患者の看護 8. 帯状疱疹患者の看護	講義
3回目	終講試験	講義

1. 病理学での知識を基に皮膚科系の看護について理解する。

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 皮膚(成人看護学⑫) (医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次後期
科 目 名 (単元名)	成人看護の方法Ⅱ 腎泌尿器系	時間数	9 時間
講 師	①日野 博之 ②秋好 美希	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

腎・泌尿器系は、尿の生成・排出という機能を基本に持ち、体液の恒常性維持やタンパク代謝産物の排泄という身体にとって重要な働きを担っている。疾患の特徴として、慢性化しやすく、治療が長期にわたるものが多い。また、排尿障害・性機能障害には強い羞恥心ととまどいなどの心理反応を伴う。看護においては、疾患の特徴や病態の特徴を把握し、QOLを考慮した支援が求められる。腎・泌尿器系の看護師に求められる専門的知識・技術を学ぶ。

<科目目標>

1. 病理学での知識を基に腎泌尿器系の看護について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 疾患の経過と看護 1. 急性期患者の看護 2. 回復期患者の看護 3. 慢性期患者の看護 4. 終末期患者の看護 5. 継続看護 II. 症状に対する看護 1. 浮腫のある患者の看護 2. 高血圧のある患者の看護 3. 下部尿路症状のある患者の看護 4. 尿の性状異常のある患者の看護 5. 疼痛のある患者の看護	講義
2回目	III. 検査を受ける患者の看護 1. 尿検査を受ける患者の看護 2. 膀胱鏡検査を受ける患者の看護 3. 画像検査を受ける患者の看護 4. 生検を受ける患者の看護 5. 尿流動態検査を受ける患者の看護	講義
3回目	IV. 内科的治療を受ける患者の看護 1. 治療・処置を受ける患者の看護 2. 疾患を持つ患者の看護 3. 透析治療を受ける患者の看護	講義
4回目	V. 泌尿器科的治療を受ける患者の看護 1. 処置を受ける患者の看護 2. 手術を受ける患者の看護 3. 薬物療法を受ける患者の看護 4. 放射線療法を受ける患者の看護 5. 腎移植を受ける患者の看護 6. 性・生殖機能障害のある患者の看護	講義
5回目	終講試験	講義

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 腎・泌尿器(成人看護学⑧) (医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次 後期
科 目 名 (単元名)	成人看護の方法Ⅱ 女性生殖器	時間数	7 時間
講 師	湯田 彩織	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

解剖生理学や病理学Ⅴ・女性生殖器で学んだ知識を基盤に、子宮・卵巣を中心とした女性生殖器疾患をもつ患者に対する看護を学習する。主には、患者のアセスメントや看護活動を実践するための方法論を学習する。

<科目目標>

1. 女性生殖器疾患をもつ患者に対する看護実践の方法を理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 疾患の経過と看護 1. 急性期の看護 2. 回復期の看護 3. 慢性期の看護 4. 終末期の看護 II. 外来・病棟における看護 III. 診療介助における看護 IV. 症状とその病態に対する看護 ショック状態、性器出血、帯下・掻痒感、疼痛、リンパ浮腫、下腹部膨満・腫瘤感、自律神経失調症状・不定愁訴 1.	講義
2回目	VI. 臓器別疾患・機能的疾患患者の看護 1. 外陰部 2. 膣 3. 子宮 4. 卵管 5. 卵巣 6. 骨盤内 月経異常・月経随伴症状	講義
3回目	VII. 手術を受ける患者の看護 VIII. 化学療法を受ける患者の看護 IX. 放射線療法を受ける患者の看護 X. ホルモン療法を受ける患者の看護	講義
4回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年後期
科 目 名 (単元名)	成人看護の方法Ⅱ アレルギー膠原病	時間数	7時間
講 師	川久保 宏美	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

< 概要 >

看護を、保健医療という幅広い視野のなかで健康の保持・増進という視点においてとらえ、一方、疾患を持った患者に対しては、それぞれの患者が最も必要としている援助を行っていく必要がある。人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障がいがおこった場合に、その患者がいかなる状態におかれるか、そのような患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを考えなければならない。

成人看護学概論で学んだ「成人」というものの概念を把握したうえで、解剖生理学や病理学Ⅰ・Ⅴでの学習内容を踏まえ、アレルギー膠原病による健康障害をもつ成人期の人々およびその家族に対し、対象の個別性に応じた看護が実践できるための基礎的能力を身につける。また、主な疾患や症状だけでなく、検査・治療の実際を知り、臨床での看護実践に活かせるための基礎的知識を修得する。

< 科目目標 >

1. 身体防御機能障害の原因と程度を述べることができる
2. 主な症状とその看護について述べるができる
3. 主な検査と、検査を受ける患者の看護について述べるができる
4. 主な治療と、治療を受ける患者の看護について述べるができる
5. 機能障害をもちながら生活する人の看護について述べるができる

< 内容 >

	内容	授業方法
1回目	アレルギー疾患患者の看護	講義
2回目	膠原病疾患患者の看護	講義
3回目	感染症疾患患者の看護	講義
4回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 アレルギー 膠原病 感染症 成人看護 11 第 14 版(医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う



領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護の方法Ⅱ 内分泌代謝系	時間数	9時間
講 師	渡邊 真由美	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

看護を、保健医療という幅広い視野のなかで健康の保持・増進という視点においてとらえ、一方、疾患を持った患者に対しては、それぞれの患者が最も必要としている援助を行っていく必要がある。人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障がいがおこった場合に、その患者がいかなる状態におかれるか、そのような患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを考えなければならない。

成人看護学概論で学んだ「成人」というものの概念を把握したうえで、解剖生理学や病理学Ⅰ・Ⅴでの学習内容を踏まえ、内分泌系の健康障害をもつ成人期の人々およびその家族に対し、対象の個別性に応じた看護が実践できるための基礎的能力を身につける。また、主な疾患や症状だけでなく、検査・治療の実際を知り、臨床での看護実践に活かせるための基礎的知識を修得する。

<科目目標>

1. 内分泌・代謝機能障害の原因と程度を述べることができる
2. 主な症状とその看護について述べるができる
3. 主な検査と、検査を受ける患者の看護について述べるができる
4. 主な治療と、治療を受ける患者の看護について述べるができる
5. 機能障害をもちながら生活する人の看護について述べるができる

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 機能障害のアセスメントについて 1. 甲状腺機能障害の原因と程度について 2. 副腎機能障害の原因と程度について 3. 下垂体機能障害の原因と程度について 4. 血糖調節機能障害の原因と程度について 5. 内分泌・代謝機能障害がもたらす生活への影響について	講義
2回目	II. 主な症状とその看護について 1. 甲状腺機能障害による症状 2. 副腎機能障害による症状 3. 下垂体機能障害による症状 4. 血糖調節機能障害による症状の把握と援助	講義
3回目	III. 検査を受ける患者の看護について 1. ホルモン負荷試験 2. ホルモン血中・尿中濃度測定検査 3. 糖負荷試験(OGTT) 4. 血糖自己測定(SMBG)を行う患者の援助	講義
4回目	IV. 治療を受ける患者の看護について 1. 甲状腺ホルモン療法 2. 甲状腺切除術 3. インスリン補充療法 4. インクレチン関連薬による治療 5. 糖尿病治療内服薬による治療 6. 食事・運動療法	講義
5回目	終講試験	講義

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護6 第14版(医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年前期
科目名 (单元名)	成人看護の方法Ⅲ 循環器系	時間数	9時間
講師	木原 康洋	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

看護を、保健医療という幅広い視野のなかで健康の保持・増進という視点においてとらえ、一方、疾患を持った患者に対しては、それぞれの患者が最も必要としている援助を行っていく必要がある。人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障がいがおこった場合に、その患者がいかなる状態におかれるか、そのような患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを考えなければならない。

成人看護学概論で学んだ「成人」というものの概念を把握したうえで、解剖生理学や病理学Ⅰ・Ⅱでの学習内容を踏まえ、循環器系の健康障害をもつ成人期の人々およびその家族に対し、対象の個別性に応じた看護が実践できるための基礎的能力を身につける。また、主な疾患や症状だけでなく、検査・治療の実際を知り、臨床での看護実践に活かせるための基礎的知識を修得する。

<科目目標>

1. 循環機能障害の原因と程度を述べることができる
2. 主な症状とその看護について述べるができる
3. 主な検査と、検査を受ける患者の看護について述べるができる
4. 主な治療と、治療を受ける患者の看護について述べるができる
5. 機能障害をもちながら生活する人の看護について述べるができる

<内容>

	内容	授業方法
1回目	Ⅰ. 疾病の経過と看護について 1. ポンプ機能障害の原因と程度について 2. 輸送還流障害の原因と程度について 3. 刺激伝導障害の原因と程度について 4. 疾病の経過と看護について	講義
2回目	Ⅱ. 主な症状とその看護について 1. 胸痛 2. 呼吸困難 3. 浮腫 4. チアノーゼ 5. ショック 6. その他(不整脈、動悸、めまい・失神、四肢の疼痛)	講義
3回目	Ⅲ. 検査を受ける患者の看護について 1. 心臓カテーテル法をうける患者の看護について 2. 心電図・心エコー検査をうける患者の看護について 3. 心血管造影検査をうける患者の看護について 4. その他の検査をうける患者の看護について	講義
4回目	Ⅳ. 治療を受ける患者の看護について 1. 冠状動脈インターベンション(PCI)の看護について 2. 冠状動脈バイパス術(CABG)の看護について 3. 弁置換術・弁形成術の看護について 4. 補助循環装置(大動脈内バルーンパンピング:IABP)の看護について 5. ペースメーカー(体外式、植込み型)を装着した患者の看護について 6. 血栓溶解療法・血栓除去術を受ける患者の看護について 7. 薬物療法を受ける患者の看護について	講義

5回目	終講試験	
<p>テキスト・参考文献</p> <p>1. 系統看護学講座 循環器 成人看護3 第14版(医学書院)</p>		
<p>評価基準</p> <p>学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。</p> <p>評価方法</p> <p>筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う</p>		

領域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次前期
科目名 (单元名)	成人看護の方法Ⅲ 運動器系	時間数	9 時間
講師	田中 美乃利	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

外傷と非外傷、加齢に伴う退行性変化、障害に対する新たな能力の獲得、そして骨腫瘍といったように運動器疾患の発生機序、患者の経過、治療方法はさまざまである。そして、治療の選択や治療への取り組み方には、対象者の職業や経済状況、家族といった社会的要因が大きく影響を及ぼす。さらに、急性期医療、回復期リハビリテーション、そして在宅といったように、医療提供の場は多岐にわたる。看護がつながり、対象者とその家族に対して適切で切れ目のない看護を提供するために専門的知識・技術を学ぶ必要がある。

<科目目標>

	内容	授業方法
1回目	I. 患者の看護 1. 援助のためのおもな知識と技術 2. 症状に対する看護 1) 神経麻痺 2) 循環障害とフォルクマン拘縮 3) 疼痛 4) 出血 5) 感染 6) 深部静脈血栓 7) 褥瘡	講義
2回目	3. 検査を受ける患者の看護 1) 単純X線検査 2) 磁気共鳴撮像法 3) 脊髄造影検査 4) 関節造影検査	講義
3回目	4. 保存療法を受ける患者の看護 1) ギプス固定を受ける患者の看護 2) 副子固定を受ける患者の看護 3) 牽引療法を受ける患者の看護 5. 手術を受ける患者の看護	講義
4回目	6. 経過に応じた患者の看護 7. 疾患を持つ患者の看護 1) 大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折患者の看護 2) 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 3) 腰痛症患者の看護 4) 脊髄損傷患者の看護 5) 骨腫瘍患者の看護	講義
5回目	終講試験	

1. 病理学での知識を基に運動器系の看護について理解する。

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 呼吸器(成人看護学⑩) (医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次前期
科目名 (単元名)	成人看護の方法Ⅲ 脳神経系	時間数	7 時間
講師	岩淵 まどか	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

脳・神経疾患は原因が究明されているのが少ない。そして、治療法がなく、症状が慢性に進行する疾患が多い。看護師には、まず複雑な疾患の病態に関する基本的知識と、それに基づいた各種看護技術などの習得が必要となる。それらのうえに、患者の抱える身体的な問題、心理・社会的な問題を明らかにし、問題の解決に向けて支援していく。特に脳・神経系疾患では、さまざまな機能障害をかかえることになるので、入院の早期から機能回復および自立に向けた積極的な援助を行う必要がある。また、退院後は患者の健康・生活の維持のために、保健・福祉領域に携わる多職種の専門下とも情報を交換し、連携を取っていく必要がある。

<科目目標>

1. 病理学での知識を基に脳神経系の看護について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 疾病の経過と看護 II. 症状・障害を持つ患者の看護 1. 生命維持活動調節機能障害の症状 2. 運動・感覚機能障害の症状 3. 言語機能障害の症状 4. 高次脳機能障害の症状	講義
2回目	III. 治療・処置を受ける患者の看護 1. 開頭術 2. 穿頭術 3. 血管バイパス術 4. 血管内治療(血栓溶解療法、動脈瘤塞栓術)を受ける患者の看護 5. 脳室ドレナージ術 6. 脳室—腹腔シャント術 7. 低体温療法	講義
3回目	IV. 疾患を持つ患者の看護 1. 脳血管障害患者の病期に応じた看護 2. 脳腫瘍患者の病期に応じた看護 3. 脳梗塞患者の病期に応じた看護 4. 小脳疾患患者の病期に応じた看護 5. 頭部外傷患者の看護 6. 脊髄損傷患者の看護 7. 脳死状態にある患者の看護	講義
4回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 脳・神経(成人看護学⑦) (医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次前期
科 目 名 (単元名)	成人看護の方法Ⅲ 眼耳鼻咽喉科	時間数	9時間
講 師	土居 由紀	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

眼科・耳鼻科系器官に生じる病気ごとの特徴を理解する。耳鼻咽喉領域は環境との相互作用が成立する領域である。外から刺激を受容する感覚機能と、刺激を選択・調整し反応する自己表現機能とを備えている。患者の特徴を機能障害などの身体変化について、またコミュニケーション障害による自己概念の変化や社会活動の変化などの社会問題について学ぶ。眼科領域は外界からの情報の多くを視機能により獲得している。そのため視機能の障害により身体的にも心理・社会的にも様々な問題が起こる。その問題を理解しどのような援助をしたらよいか、そのためにどのような知識・技術が必要かを知ることが大切である。

<科目目標>

1. 眼耳鼻科系の患者の身体的、心理・社会的な問題を理解することができる。
2. 眼耳鼻科系の疾患を持つ患者の看護を理解することができる。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	視覚障害を持つ患者の看護 白内障、緑内障、網膜剥離の患者の看護	講義
2回目	眼科系治療・検査・処置を受ける患者の看護 眼底光凝固療法、網膜離治療、眼内レンズ挿入術、眼底検査	講義
3回目	聴覚障害、臭覚障害を持つ患者の看護 鼓室形成術、聴力検査、経鼻内視鏡検査	講義
4回目	喉頭がん患者の看護	講義
5回目	終講試験	講義

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 眼(成人看護学⑬)
2. 系統看護学講座 耳鼻咽喉(成人看護学)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次前期
科 目 名 (单元名)	成人看護学の方法Ⅳ 血液造血器系	時間数	7時間
講 師	山田 精一	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

血液・造血器疾患は主に赤血球、白血球などの異常からなるものをいい全身的な症状を呈することが特徴である。血液・造血器系の障害を持つ対象は食習慣や成長発達に伴い出現する。一般的な症状としての障害を持つ人から、難病に位置付けられている疾病のようにまれで重症な疾患を持つ人、悪性新生物に分類される白血病、悪性リンパ腫などを持つ人まで幅広い。血液・造血器系の障害を持つ患者の特徴と看護の役割を理解する。

<科目目標>

1. 血液・造血器疾患のある患者の看護を理解することができる。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	血液、造血器系の疾患を持つ患者の看護 (赤血球系の異常、白血球系の異常、出血性疾患、等)	講義
2回目	血液、造血器系の検査とその看護	講義
3回目	造血器腫瘍患者の看護 事例による看護過程の展開	講義
4回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 血液・造血器(成人看護学④) 2019年(医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。



領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次後期
科 目 名 (単元名)	成人看護の方法Ⅳ 呼吸器系	時間数	11 時間
講 師	小野 直美	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

呼吸器疾患患者は、呼吸器という生命を維持するうえで重要な器官を病んだことからくる身体的問題はもちろんのこと、心理的・社会的問題を伴い生活そのものへの影響を体験している。呼吸器に障害のある患者の問題は、患者本人にとどまらず家族や周囲の人々を巻き込み、経過も多彩で複雑である。患者・家族が治療に積極的に参加し、高いQOLが得られるよう、看護師はリーダーシップを発揮しながら医療チームとの情報を共有し、患者の権利が尊重され目標が達成されるよう質の高い看護を実践することが求められる。

<科目目標>

1. 病理学での知識を基に呼吸器系の看護について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	1. 原因と障害の程度のアセスメントと看護 酸素化障害 換気障害 呼吸運動障害 生命生活への影響	講義
2回目	2. 検査・処置を受ける患者への看護 動脈血液ガス分析 呼吸機能検査 気管支鏡検査 胸腔穿刺 肺生検	講義
3回目	3. 治療を受ける患者の看護 酸素療法 非侵襲的陽性換気 侵襲的様圧換気 肺切除術	講義
4回目	胸腔ドレナージ 吸入による薬物療法 薬物療法	講義
5回目	4. 病期や機能障害に応じた看護 腫瘍(肺がん 中皮腫) 炎症性疾患(肺炎、気管支炎、胸膜炎、結核 ) 慢性閉塞性肺疾患<COPD> 気管支喘息	講義
6回目	終講試験	講義

テキスト・参考文献

1. 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次後期
科 目 名 (単元名)	成人看護の方法Ⅳ 緩和ケア	時間数	9時間
講 師	佐藤 隼人	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

生命をおびやかす疾患にある患者及び家族の苦痛の緩和、症状コントロールと治療にともなう看護について学ぶ。

<科目目標>

健康障害をもつ成人期の人々およびその家族に対し、対象の個別に応じた看護が実践できる基礎的能力を身につけることができる。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 緩和ケア総論	講義
2回目	II. 緩和ケア 倫理的なケア	講義
3回目	緩和ケアにおけるコミュニケーション、家族ケア	講義
4回目	苦痛症状の緩和	講義
5回目	終講試験	講義

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 第3版 医学書院

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次後期
科 目 名 (単元名)	成人看護の方法Ⅳ がん看護	時間数	7時間
講 師	竹村 陽子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

病理学での知識をもとに、がんの看護について学ぶ。

<科目目標>

健康障害をもつ成人期の人々およびその家族に対し、対象の個別に応じた看護が実践できる基礎的能力を身につける。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. がんの基礎知識と看護	講義
2回目	II. がんの告知と看護師の役割	講義
3回目	III. 乳がん患者の看護	講義
4回目	終講試験	講義

テキスト・参考文献

1. 病気がみえる⑨ 婦人科・乳腺外科 第3版 MEDIC MEDICA
2. 講師の資料

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領域	専門分野Ⅱ	履修時期	1年次後期
科目名	老年看護学概論	時間数	30時間
講師	貞清 瑞枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校専任教員

<概要> No.1  
 超高齢社会を迎え、2025年問題という言葉も生まれる中、保健医療福祉のあり方や看護を提供する場、そこで看護師が果たす役割は大きい。そこで、その人らしさを失わないケアを提供できるようになるために必要な、対象の理解と社会資源についての基本的な知識について学習する。

- <科目目標(もしくは単元目標)>
1. 老年看護の対象を、ライフサイクルの中でとらえ説明することができる
  2. 日本における高齢化の特徴と、それに伴う問題について説明することができる
  3. 対象を取り巻く環境の変化と問題点、その改善に向けた取り組みについて考えることができる
  4. その人らしく生きるということの意味と、そのために何が必要かを考えることができる
  5. 看護を実践するために必要な、基本的理論について説明することができる
  6. 看護の役割について考えることができる

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 高齢者の概念 1. 高齢者に対するイメージ 2. 自己と他者のイメージとの共通点と相違点 3. 衰退減少と成熟現象	個人ワーク グループワーク 講義
2回目	II. 老年期にある人のライフサイクル 1. 誕生から現在までの時代背景、生活背景	個人ワーク グループワーク 講義
3回目	III. 老いの受容と適応 1. 発達課題 2. 生活パターンの変化 3. 役割機能の変化	個人ワーク グループワーク 講義
4回目	IV. 生命の神秘と看護の心	講義
5回目	※ 佐々木瑞昌先生	
6回目	V. 死生観とQOL 1. 死生観について 2. QOLについて	個人ワーク グループワーク 講義
7回目	VI. 加齢と老化 1. 加齢と老化 2. 加齢と老化による影響	個人ワーク グループワーク 講義
8回目	VII. 高齢者が抱える健康問題 1. 加齢・老化の影響と、特徴的な疾患・症状の関連 2. 高齢者の疾患の特徴 3. 高齢者に生じやすい生活上の問題	個人ワーク グループワーク 講義
9回目	VIII. 高齢者に生じやすい健康問題とその看護 1. 高齢者に生じやすい問題の解決策 2. 自立と依存について	個人ワーク グループワーク 講義
10回目	IX. 認知症の理解とその看護 1. 認知症の原因疾患とその特徴 2. 認知症の症状とそのかわり方	個人ワーク グループワーク 講義

11 回目	X. 高齢者を取り巻く社会の動向 1. 人口動態と高齢化率 2. 家族関係や世帯構成の変化 3. 高齢化に伴う諸問題と、その改善点 4. 保健医療福祉サービスの現状	個人ワーク グループワーク 講義
12 回目	XI. 高齢社会における権利擁護と倫理的課題 1. 看護職者の倫理的責任について 2. 高齢者の権利と、権利擁護について 3. 意思表示が不確かな場合の、自己決定のあり方について 4. 最期までその人らしく生活するということの意味	個人ワーク グループワーク 講義
13 回目	XII. 老年看護で活用される基本的理論 1. 基本的ニード論やエンパワメント理論、ストレングスモデル 2. 基本的看護理論を学ぶ意味	個人ワーク グループワーク 講義
14 回目	XIII. 老年看護の概念 1. 老年看護の目的・役割 2. 老年看護の特徴 3. 高齢者観について	個人ワーク グループワーク 講義
15 回目	筆記試験	筆記試験

## テキスト・参考文献

1. 老年看護学 概論と看護の実践 第5版 (ヌーベルヒロカワ)
2. 老年看護技術 最期までその人らしく生きることを支援する (南江堂)
3. 老年看護学 高齢者の健康生活を支える看護 (医歯薬出版株式会社)
4. 高齢者看護すぐに実践トータルナビ メディカ出版
5. 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)

## 評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

## 評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次前期
科 目 名 (単元名)	老年看護の方法Ⅰ	時間数	15時間
講 師	貞清 瑞枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校教員

<概要> No.1  
 超高齢社会を迎え、2025年問題という言葉も生まれる中、保健医療福祉のあり方や看護を提供する場には、様々な課題が生じている。それらの課題の内、健康障害をもつ高齢者への看護を実践するための、基本的な考え方を学習する。

准看護学科や、1年次の老年看護学概論で履修した高齢者の特徴をふまえ、加齢の影響と健康障害との関係や生活の場における看護の視点を考える。また、1年次に履修した看護過程の学習内容を想起させながら高齢者の看護過程の特徴を考えることで、老年看護の方法Ⅱ(看護過程)での学習に結びつけられるようにする。

<科目目標(もしくは単元目標)>

1. 加齢に伴う諸機能の変化を踏まえて、日常生活の中で起こりうる問題とその特徴を理解出来る。
2. 高齢者の個別性を考慮し、主な症状・疾患に対する看護援助や予防、健康教育のあり方を理解出来る。
3. 高齢者が遭遇する頻度が多い事故について理解し、事故予防や急変・救急時の対応を考えることができる。
4. 健康段階に応じた看護のあり方を理解し、継続看護について考えることができる。
5. 高齢者の生活の質について考え、自己の高齢者観を深めることが出来る。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 対象理解と看護の役割 1. 老年看護の役割とその対象を理解する 2. 加齢に伴う諸機能の変化を理解する	講義 個人ワーク
2回目	II. 高齢者に特徴的な疾患・症状とその看護 1. 加齢に伴う諸機能の変化と疾患・症状との関連を理解する 2. アセスメントのポイントを理解する	講義 個人ワーク
3回目		グループワーク
4回目	III. 健康段階に応じた看護 1. 健康段階別の看護の視点を理解する 2. 継続看護と QOL について考える	講義 個人ワーク グループワーク
5回目	IV. 治療・処置時や急変・救急時の看護 1. 治療・処置時に生じる問題とその対応を理解する 2. 高齢者に多い事故と予防法を理解する 3. 救急時の対応を考える 4. 災害時の対応を考える	講義 個人ワーク グループワーク
6回目	V. 生活の場における看護の視点 1. 加齢に伴う身体機能の変化が活動に及ぼす影響を理解する 2. 高齢者の健康づくりのポイントを理解する 3. 生活リズムを整える援助を理解する	講義 個人ワーク

7回目	VI. 高齢者の看護過程の特徴 1. ヘルスアセスメントの考え方を理解する 2. 複数疾患を持つ高齢者の、看護過程を考える 3. 老年看護のあり方について考える	講義 個人ワーク グループワーク
8回目	筆記試験	筆記試験

テキスト・参考文献

1. 老年看護学 概論と看護の実践 第5版 (ヌーベルヒロカワ)
2. 老年看護技術 最期までその人らしく生きることを支援する (南江堂)
3. 老年看護学 高齢者の健康生活を支える看護 (医歯薬出版株式会社)
4. 高齢者看護すぐに実践トータルナビ メディカ出版
5. 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)
6. 老年看護過程 (医学書院)
7. 場面で学ぶ 老年看護学 (メディカ出版)
8. 新クイックマスター 老年看護学 (医学芸術社)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

1. 筆記試験 80%
2. 受講状況(出席、受講態度、グループワークへの参加度、レポート) 20%
3. 合計 100点、60点未満は再試験を行う。

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次前期
科 目 名 (単元名)	老年看護の方法Ⅱ	時間数	30 時間
講 師	川野 明子	実務経験関連 資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校教 員
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>超高齢社会を迎え、2025 年問題という言葉も生まれる中、保健医療福祉のあり方や看護を提供する場には様々な課題が生じている。看護師には、高齢者個人だけでなく、家族や周囲の人々、地域社会を含めて看護の対象を捉え、かつ対象一人一人に応じた看護のあり方を考える力が求められている。</p> <p>これまでに履修した、高齢者の特徴や生活背景の理解と、高齢者に起こりやすい問題や加齢の影響に対する理解を踏まえ、対象を総合的にとらえて看護を展開していくための基本的な思考過程について学習する。</p>		No.1	
<p>&lt;科目目標(もしくは単元目標)&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある対象の健康問題をアセスメントするうえで必要な視点について理解することができる</li> <li>2. 老年期にある対象の看護過程を展開するうえで考慮すべき特徴について理解することができる</li> <li>3. 老年期にある対象の看護過程を、事例を用いて展開することができる</li> <li>4. 老年期にある対象に応じた看護技術・生活援助技術について考えることができる</li> </ol>			
<p>&lt;内容&gt;</p>			



	内容	授業方法
1回目	I. 老年看護過程の考え方 1. 情報収集の視点が理解できる 2. アセスメントの視点について考えることができる	個人ワーク グループワーク 講義
2回目	II. 老年看護過程の展開(情報の整理) 1. 情報収集の視点に沿って、情報の分類をすることができる	個人ワーク グループワーク 講義
3回目		
4回目	III. 看護過程の展開(アセスメント) 1. アセスメントの視点に沿って、情報を分析することができる	個人ワーク グループワーク 講義
5回目		
6回目	IV. 看護過程の展開(関連図) 1. 分析した情報を、関連図に描き表わすことができる 2. 描き表わした関連図を基に、全体像を述べるることができる	個人ワーク グループワーク 講義
7回目		
8回目		
9回目	V. 看護過程の展開(問題点の明確化) 1. 全体像から、問題点を抽出することができる 2. 問題の優先順位を考える視点が理解できる	個人ワーク グループワーク 講義
10回目	VI. 看護過程の展開(計画立案) 1. 抽出した問題点に対し、具体策を考えることができる 2. 個別性を踏まえた計画の工夫・留意点を考えることができる	個人ワーク グループワーク 講義
11回目		
12回目	VII. 生きがいへの援助 1. 生きがいとは何かを考えることができる	個人ワーク 講義
13回目	VIII. 老年看護過程の特徴と留意点 1. 老年看護過程で考慮すべき視点を考えることができる 2. 援助技術の工夫を考えることができる 3. 老年看護過程展開の特徴を考えることができる	個人ワーク グループワーク 講義
14回目		
15回目		
	筆記試験	筆記試験

No.2

## テキスト・参考文献

1. 老年看護学 概論と看護の実践 第5版 (ヌーベルヒロカワ)
2. 反町武史、田中博子：ナースングプロセス(大腿骨近位部骨折)クリニカルスタディ、31(1)、2010、p.4～31
3. 佐藤政枝：大腿骨頸部骨折患者の看護過程、クリニカルスタディ、28(1)、2007、p.52～61
4. 小田正枝 監修、村山由起子 執筆：疾患別看護過程(大腿骨頸部骨折)、19(3)、2010、p.43～59
5. 箱石文恵 他：大腿骨頸部骨折患者の看護(吉澤理 編：疾患理解とケアプランのための看護過程セミナー)、医学芸術社、p.166～179
6. 実践 看護アセスメント 第3版 (ヌーベルヒロカワ)

## 評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

## 評価方法

1. 筆記試験 50%
2. レポート 30%
3. 受講状況(出席、受講態度、グループワークへの参加度) 20%
4. 合計 100点、60点未満は再試験を行う。

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	1 年次前期																									
科 目 名	小児看護学概論	時間数	30 時間(1 単位)																									
講 師	江藤 たつみ	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校専任教員																									
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>子どもの健やかな成熟は、人類共通の願いといっても過言でない。日本は少子高齢社会となり、子どもを取り巻く環境は急速に変化している。小児看護の対象である子どもについて理解を深めるための成長・発達の特徴を学ぶことは欠かせない。さらに、子どもを取り巻く環境として、現代の家族の状況や保健・医療・福祉の動向について学習する。また、子どもは成長・発達する段階であるものの一人の人として尊重される存在である。意思決定において家族の価値や意向に委ねられるが子どもの最善の利益を守るための倫理観をもつことも小児看護の役割といえる。これらの事を学習し、考える基礎を養う。</p> <p>&lt;科目目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児と小児看護について基本的な考え方を理解する。</li> <li>2. 子どもの成長・発達を理解し、小児各期の特徴に適した生活と養護を理解する。</li> <li>3. 小児を取り巻く家族の状況と保健・医療・福祉の動向を理解する。</li> <li>4. 小児が尊重される存在であり最善の利益を守るための考え方を理解できる。</li> </ol> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>I. 小児看護の特徴と理念 1. 小児医療の変遷と課題 2. 小児看護の変遷と課題</td> <td>講義 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>II. 子どもの成長・発達(1) 1. 成長・発達の概念 2. 成長・発達の原則 3. 成長・発達に影響する因子 4. 成長・発達の評価</td> <td>講義 DVD 学習</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>III. 子どもの成長・発達(2) 1. 各発達段階の形態的特徴 2. 各発達段階の機能的発達 3. 各発達段階の心理社会的発達 4. 各発達段階の養育と看護</td> <td>講義 DVD 学習</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>IV. 子どもの栄養 1. 栄養の意義 2. 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td rowspan="3">V. 成長・発達の学習 1. 担当年齢の成長・発達 2. 担当年齢の養育と看護 3. 各発達年齢の成長・発達の共有</td> <td rowspan="3">グループワーク 発表</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> <td rowspan="3">VI. 遊びの機能と発達 1. 担当年齢の遊びの展開 2. 子どもの安全と事故防止</td> <td rowspan="3">グループワーク 発表</td> </tr> <tr> <td>9回目</td> </tr> <tr> <td>10 回目</td> </tr> </tbody> </table>					内容	授業方法	1回目	I. 小児看護の特徴と理念 1. 小児医療の変遷と課題 2. 小児看護の変遷と課題	講義 グループワーク	2回目	II. 子どもの成長・発達(1) 1. 成長・発達の概念 2. 成長・発達の原則 3. 成長・発達に影響する因子 4. 成長・発達の評価	講義 DVD 学習	3回目	III. 子どもの成長・発達(2) 1. 各発達段階の形態的特徴 2. 各発達段階の機能的発達 3. 各発達段階の心理社会的発達 4. 各発達段階の養育と看護	講義 DVD 学習	4回目	IV. 子どもの栄養 1. 栄養の意義 2. 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護	講義 演習	5回目	V. 成長・発達の学習 1. 担当年齢の成長・発達 2. 担当年齢の養育と看護 3. 各発達年齢の成長・発達の共有	グループワーク 発表	6回目	7回目	8回目	VI. 遊びの機能と発達 1. 担当年齢の遊びの展開 2. 子どもの安全と事故防止	グループワーク 発表	9回目	10 回目
	内容	授業方法																										
1回目	I. 小児看護の特徴と理念 1. 小児医療の変遷と課題 2. 小児看護の変遷と課題	講義 グループワーク																										
2回目	II. 子どもの成長・発達(1) 1. 成長・発達の概念 2. 成長・発達の原則 3. 成長・発達に影響する因子 4. 成長・発達の評価	講義 DVD 学習																										
3回目	III. 子どもの成長・発達(2) 1. 各発達段階の形態的特徴 2. 各発達段階の機能的発達 3. 各発達段階の心理社会的発達 4. 各発達段階の養育と看護	講義 DVD 学習																										
4回目	IV. 子どもの栄養 1. 栄養の意義 2. 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護	講義 演習																										
5回目	V. 成長・発達の学習 1. 担当年齢の成長・発達 2. 担当年齢の養育と看護 3. 各発達年齢の成長・発達の共有	グループワーク 発表																										
6回目																												
7回目																												
8回目	VI. 遊びの機能と発達 1. 担当年齢の遊びの展開 2. 子どもの安全と事故防止	グループワーク 発表																										
9回目																												
10 回目																												

11 回目	VII. 家族の特徴とアセスメント 1. 家族の機能と健康 2. 家族アセスメント 3. 発達段階別の家族の役割と発達課題	講義 演習
12 回目	VIII. 子どもと家族を取り巻く社会 1. 諸統計からみた小児と家族の健康課題 2. 保健・医療・福祉に関する法律と制度	講義 グループワーク
13 回目		
14 回目	IX. 小児看護における倫理 1. 子どもの人権 2. 医療を受ける小児の権利 3. 小児の権利と必要な看護行為	講義 演習
15 回目	後期試験	筆記試験

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 小児看護学概論 小児看護学総論 第13版 (医学書院)
2. ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 第5版 (メディカ出版)
3. 国民衛生の動向 2016/2017 (厚生労働統計協会)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

1. 筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次前期
科目名	小児看護の方法Ⅰ	時間数	15時間
講師	①古賀 寛史 ②今井 一秀 ③植村 篤実 ④有馬 明子	実務経験 関連資格	医師
<p>&lt;概要&gt; 小児期に出現しやすい健康問題及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶことは看護をするうえで大変必要である。また、健康障害を持ちながら成長発達する小児を理解し、養育環境をより安定したものとなるための知識を深めることが看護師の役割として求められる。</p> <p>&lt;科目目標&gt; 1. 小児と小児看護について基本的な考え方を理解する。</p>			
	内容	授業方法	
1回目	<1>染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1. 先天異常、先天性心疾患など 2. 染色体異常 <2>新生児の異常	講義	
2回目	<3>}代謝性疾患 1. 先天代謝異常 <4>消化器疾患	講義	
3回目	<5>免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ疾患 1. 食物アレルギー、気管支喘息、川崎病など <6>血液造血器疾患 1. 特発性血小板減少性紫斑病など <7>悪性新生物	講義	
4回目	<8>感染症 <9>吸器疾患 1. 上気道疾患、肺炎など <10>事故・外傷 <11>運動器疾患	講義	
5,6回目	<12>腎・泌尿器および生殖器疾患 1. 腎・尿路奇形、ネフローゼ症候群など <13>神経疾患 1. けいれん性疾患、脳性麻痺、筋ジストロフィーなど	講義	
7回目	<14>代謝疾患 1. 糖尿病、先天性代謝異常、など <15>内分泌疾患 1. 下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎・性腺疾患、など	講義	
8回目	<16>精神疾患 1. 発達障害など	講義	
	終講試験		
2. 小児各期に特有な健康問題と健康障害を持つ小児とその家族を理解する。			
テキスト・参考文献			
1. 系統看護学講座 小児臨床看護各論 (医学書院)			
評価基準			
学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。			
評価方法			
筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。			

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次前期
科 目 名	小児看護の方法Ⅰ	時間数	30時間中 15時間
講 師	①阿部 奈津樹 ②大門 健二	実務経験 関連資格	①②病院における看護師経験

<概要>

小児期に出現しやすい健康問題及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶことは看護をするうえで大変必要である。また、健康障害を持ちながら成長発達する小児を理解し、養育環境をより安定したものとなるための知識を深めることが看護師の役割として求められる。

<科目目標>

1. 小児と小児看護について基本的な考え方を理解する。
2. 小児各期に特有な健康問題と健康障害を持つ小児とその家族を理解する。
3. 保健・医療・福祉チームの中での小児看護の役割が理解できる。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	・染色体異常・胎内環境により発症する先天異常の看護 1. 先天異常、先天性心疾患など 2. 染色体異常 ・新生児期の看護	講義
2回目	・代謝性疾患の看護 ・内分泌疾患の看護 ・アレルギー、リウマチの看護	講義
3回目	・感染症の看護 ・呼吸器、循環器系の看護	講義
4回目	・消化器疾患の看護 ・血液造血器系疾患の看護 ・悪性新生物の看護	講義
5回目	・腎泌尿器系疾患の看護 ・運動器系の疾患の看護	講義
6回目	・重症心身障害児の看護 体位、ポジショニングの実際	講義 演習
7回目	・重症心身障害児の看護 食事介助の実際	講義 演習
8回目	終講試験	筆記試験

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 小児臨床看護各論 第13版 (医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次後期
科 目 名 (单元名)	小児看護の方法Ⅱ	時間数	30 時間
講 師	江藤 たつみ	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府医師会立別府青山看護学校教員

<概要>

健康障害をもった小児の健康問題をアセスメントし、実施・評価する過程を理解する。

<科目目標>

- 1.小児を科学的思考に基づいて援助するための、看護過程展開技術を修得する。
- 2.小児に特有な看護技術を学び、遊びについて理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	看護過程 事例：川崎病 情報の整理	講義 演習
2回目	アセスメントの考え方と視点	講義 演習
3回目	アセスメントの考え方と視点	講義 演習
4回目	アセスメント	講義 演習
5回目	アセスメント	講義 演習
6回目	看護計画	講義 演習
7回目	看護過程 事例：小児麻痺 情報の整理	講義 演習
8回目	アセスメントの考え方と視点	講義 演習
9回目	アセスメント	講義 演習
10回目	関連図、問題リスト、計画	講義 演習
11回目	計算問題演習	講義 演習
12回目	小児看護技術演習について	講義 演習
13回目	小児看護技術演習について	演習 講義

14 回目	小児看護技術演習について	講義 演習
15 回目	まとめ 終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 小児臨床看護各論 第13版 (医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	1年次 後期
科 目 名 (単元名)	母性看護学概論	時間数	15 時間
講 師	宮野 康子	実務経験 関連資格	病院における助産師経験

<概要>

母性看護学は、妊産褥婦および新生児への看護活動に加え、次世代の健全育成を目指し、母性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病予防を目的とした看護活動を支える実践科学です。

本科目では、母性看護を必要とする対象を理解するために、女性の受精から成熟までの形態・機能の特性とその変化、女性・家族のライフサイクルの変化、母性としての発達・成熟・継承における特性とその変化について学習します。また、各種統計や法律をもとに、対象を幅広く把握し考えていきます。女性の生涯を通じた健康の保持・増進の観点からは、家族計画および、リプロダクティブヘルスに関する主要な健康問題と課題について学習していきます。

<科目目標>

1. 母性の概念を理解し、母性看護の意義と役割を学ぶ。
2. 母性看護の変遷と現状を学び、母性看護の対象を理解する。
3. 女性のライフサイクル各期の発達課題と健康問題について理解する。
4. セクシャリティの概念と人間の性との関係、性行動と成長発達について学ぶ。
5. 生命の誕生に携わる看護者として生命と倫理について考える。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 母性看護の基盤となる概念 「母性とは」、母子関係と家族発達、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション、母性看護のあり方、母性看護における倫理、	講義 演習
2回目	II. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1. 母性看護の歴史的変遷と現状、 母性看護の変遷、母子保健統計の動向、母性看護に関する組織と法律、母子保健に関する施策、母性看護の場と職種 2. 母性看護を取り巻く環境	講義
3回目	III. 母性看護の対象理解 1. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2. 女性のライフサイクルと家族 3. 母性の発達・成熟・継承	講義
4回目	IV. 女性のライフステージ各期における看護 1. ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2. 思春期、成熟期、更年期、老年期の健康と看護	講義
5回目	V. リプロダクティブヘルスケア 1. 家族計画 2. 性感染症とその予防	講義
6回目	3.HIVに感染した女性に対する看護 4.人工妊娠中絶と看護 5.喫煙女性の健康と看護	講義
7回目	6.性暴力を受けた女性に対する看護 7.児童虐待と看護 8.国際社会と看護	講義



8回目	終講試験	
テキスト・参考文献  1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 第13版 医学書院		
評価基準 学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。 評価方法 筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。		

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年前期																																				
科 目 名 (单元名)	母性看護の方法Ⅰ	時間数	21時間																																				
講 師	①三重野 真美 ②甲斐 洋子 ③加茂 りさ	実務経験 関連資格	①②③病院における助産師経験																																				
<p>&lt;概要&gt; 妊娠、分娩、産褥、新生児の生理的な変化を学ぶ。</p> <p>&lt;科目目標&gt; 1.妊娠・分娩・産褥の各期における対象及び新生児の看護について理解する</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>&lt;妊娠の生理&gt; 受胎のメカニズム 妊娠の生理</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>胎児の発育とその生理について 妊婦の身体的な特徴・変化について 妊婦の反応や心理的变化について</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>&lt;分娩の生理&gt; 分娩の3要素、分娩の機序について 分娩の進行、経過の診断について</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>分娩の進行に伴う身体的変化について 産婦の反応や心理的变化について</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>&lt;産褥の生理&gt; 産婦の身体的・心理的变化について</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>&lt;新生児の生理&gt; 新生児の生理的变化について</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>&lt;新生児の異常&gt; 新生児の異常と看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> <td>&lt;新生児の異常&gt; 新生児の異常と看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9回目</td> <td>&lt;新生児の異常&gt; 低出生体重児の看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10回目</td> <td>&lt;新生児の異常&gt; 低出生体重児の看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11回目</td> <td>終講試験</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>					内容	授業方法	1回目	<妊娠の生理> 受胎のメカニズム 妊娠の生理	講義	2回目	胎児の発育とその生理について 妊婦の身体的な特徴・変化について 妊婦の反応や心理的变化について	講義	3回目	<分娩の生理> 分娩の3要素、分娩の機序について 分娩の進行、経過の診断について	講義	4回目	分娩の進行に伴う身体的変化について 産婦の反応や心理的变化について	講義	5回目	<産褥の生理> 産婦の身体的・心理的变化について	講義	6回目	<新生児の生理> 新生児の生理的变化について	講義	7回目	<新生児の異常> 新生児の異常と看護	講義	8回目	<新生児の異常> 新生児の異常と看護	講義	9回目	<新生児の異常> 低出生体重児の看護	講義	10回目	<新生児の異常> 低出生体重児の看護	講義	11回目	終講試験	講義
	内容	授業方法																																					
1回目	<妊娠の生理> 受胎のメカニズム 妊娠の生理	講義																																					
2回目	胎児の発育とその生理について 妊婦の身体的な特徴・変化について 妊婦の反応や心理的变化について	講義																																					
3回目	<分娩の生理> 分娩の3要素、分娩の機序について 分娩の進行、経過の診断について	講義																																					
4回目	分娩の進行に伴う身体的変化について 産婦の反応や心理的变化について	講義																																					
5回目	<産褥の生理> 産婦の身体的・心理的变化について	講義																																					
6回目	<新生児の生理> 新生児の生理的变化について	講義																																					
7回目	<新生児の異常> 新生児の異常と看護	講義																																					
8回目	<新生児の異常> 新生児の異常と看護	講義																																					
9回目	<新生児の異常> 低出生体重児の看護	講義																																					
10回目	<新生児の異常> 低出生体重児の看護	講義																																					
11回目	終講試験	講義																																					

テキスト・参考文献

医学書院 母性看護学各論  
メディックメディア 病気が見える⑩

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次前期
科 目 名 (单元名)	母性看護の方法Ⅰ	時間数	11時間
講 師	①小畑 絵梨 ②青柳 陽子 ③衛藤 聡 ④徳光 隆一 ⑤矢田 公裕	実務経験 関連資格	①②③④⑤医師 ⑤別府市医師会立別府青山看護学校 学校長

<概要>

周産期及び新生児期の異常な経過、検査、治療について

<科目目標>

1. 妊娠、分娩、産褥及び、新生児の異常経過について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	1. 出生前からのリプロダクティブヘルスケア (小畑先生) ・遺伝相談 ・不妊治療	講義
2回目	2. 妊娠期の異常 (青柳先生) ・不育症、流産、早産 ・感染症 ・常位胎盤早期離 ・前置胎盤 ・妊娠高血圧症候群 ・妊娠糖尿病 ・出生前診断 ・妊娠貧血 ・妊娠悪阻 ・高年妊娠、若年妊娠 ・胎児機能不全	講義
3回目	3. 分娩期の異常 (衛藤先生) ・前期破水 ・常位胎盤早期剥離 ・分娩時異常出血 ・胎児機能不全 ・陣痛異常(微弱陣痛、過強陣痛) ・帝王切開術 ・胎児付属物の異常	講義
4回目	4. 産褥期の異常 (徳光先生) ・帝王切開術後 ・子宮復古不全 ・産褥熱 ・産褥血栓症 ・乳腺炎 ・産後精神障害 ・尿路感染、排尿障害	講義
5回目	5. 新生児の異常 (矢田先生) ・分娩外傷 ・先天異常の新生児 ・早産児、低出生体重児 ・新生児一過性多呼吸<TTN> ・呼吸窮迫症候群<RDS> ・胎便吸引症候群<MAS> ・高ビリルビン血症 ・新生児ビタミンK欠乏症 ・低血糖症	講義
6回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 母性看護学各論 (医学書院)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	母性看護学の方法Ⅱ	時間数	45時間
講 師	①楠本 有佳子 ②高野 かおり ③木畑 孝子	実務経験 関連資格	①②病院における助産師経験 ③別府市医師会立別府青山看護学校 教員、病院における看護師経験

<概要>

妊娠、分娩、産褥、各期及び 新生児に必要な看護について理解する。

また、母性看護に特有な看護技術、正常経過を迎える対象の看護過程の展開について学ぶ。

<科目目標>

- 1.正常経歴にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護について理解する。
- 2.新たな生命を迎えるために、女性を取り巻く家族、環境を理解する。
- 3.母性看護に特養な技術を習得する。
- 4.母性の看護過程におけるウェルネス志向を理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	妊娠期の看護 妊娠の成立、妊婦の身体的変化 1)妊娠の経過と胎児の発育 2)妊婦の心理 3)妊婦の不快症状	講義
2回目	妊娠期の看護 妊婦健康診査、母子保健制度 1)妊婦の日常生活とセルフケア 2)出産、育児の準備	講義
3回目	保健指導 分娩第1期の看護	講義
4回目	妊娠、分娩期の看護 妊婦体験 腹囲・子宮底長の測定 NSTモニターの装着 レオポルド触診	演習
5回目	妊娠、分娩期の看護 妊婦体験 腹囲・子宮底長の測定 NSTモニターの装着 レオポルド触診	演習
6回目	分娩期の看護 分娩の経過と胎児の健康状態 産婦の基本的ニードと看護 産痛の緩和 産婦と家族の心理	講義
7回目	分娩期の看護 分娩時の経過の実際と看護 看護分娩後の子宮底の観察 ・ 胎盤測定	演習
8回目	産褥の生理と褥婦の看護 1)退行性変化 2)進行性変化、進行性変化に関するパンフレットの検討 3)褥婦の心理 4)褥婦の日常生活とセルフケア、産褥体操 5)母乳育児への支援 6)親役割への支援	講義

9回目	新生児の生理と看護 1)新生児の生理 2)新生児の栄養 3)新生児の保育環境 4)新生児のセルフケア	講義
10回目	母性看護の看護過程、ウェルネス看護診断	講義
11回目	看護過程 事例:正常分娩 情報の整理	講義
12回目	沐浴、新生児のバイタルサインズ測定、全身状態のチェック	演習
13回目	まとめ、沐浴、児の扱いについて	講義 演習
14回目	新生児の計測、特徴、産褥期の授乳ケア	講義
15回目	指導用リーフレットの作成	講義 演習
16回目	新生児の生理まとめ 母子を取り巻く法律について	講義
17回目	妊娠期・分娩期の経過とアセスメント	演習
18回目	産褥期、新生児のフローシート・アセスメント	演習
19回目	産褥期、新生児期のアセスメント、社会資源	演習
20回目	看護上の課題、看護計画	演習
21回目	看護計画立案	演習
22回目	看護計画発表、まとめ	演習
23回目	終講試験	

テキスト・参考文献

医学書院 母性看護学各論  
メディックメディア 病気が見える⑩  
周産期ケアマニュアル

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次前期
科 目 名 (単元名)	精神看護学概論	時間数	30 時間
講 師	影山 隆之	実務経験 関連資格	大分県立看護科学大学 看護学部 教授

<概要>

ライフサイクルにおける心の健康について理解し、心の健康を維持するための看護、および心の健康を崩している人や、精神障害者と家族の看護に必要な基礎的能力を養い、心の健康と維持増進、疾病予防をはかるための保健医療対策を学ぶ。

<科目目標>

1. ライフサイクルにおける心のしくみと発達を学び、心の健康問題と精神看護の役割を理解する。
2. 心の健康の維持増進、疾病予防をはかるための保健医療対策と心の健康を崩している対象を理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	心の健康のとらえ方	講義
2回目	精神の「障害」について	講義
3回目	心の発達、家族と心	講義
4回目	ストレス論	講義
5回目	ソーシャルサポート	講義
6回目	せん妄、幻覚妄想、精神症状	講義
7回目	観察、問診、検査	講義
8回目	統合失調症	講義
9回目	双極性障害、抑うつ障害	講義
10回目	その他の精神疾患	講義
11回目	精神看護、精神保健サービスの法と制度	講義
12回目	薬物療法	講義
13回目	リハビリ療法	講義

14 回目	精神療法	講義
15 回目	課題学習 終講試験	

テキスト・参考文献

1. 新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第4版

評価基準

学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。



領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次前期
科 目 名 (単元名)	精神看護の方法Ⅰ	時間数	15 時間
講 師	影山 隆之	実務経験 関連資格	大分県立看護科学大学看護学部 教授

<概要>

ライフサイクルにおける心の健康について理解し、心の健康を維持するための看護、および心の健康を崩している人や、精神障害者と家族の看護に必要な基礎的能力を養う。個人対個人のレベルにとどまらず、家族や組織、チームといった集団の中での人間の営みをとらえる視点を学び、言語的・非言語的コミュニケーションのあり方や関係のダイナミクスについて学習する。

<科目目標>

1. 対象との人間関係を円滑にするための基本を学び、その活用方法を理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	患者—看護師関係	講義
2回目	患者とのかかわり中でおこること	講義
3回目	コミュニケーション	講義
4回目	アセスメント	講義
5回目	自殺予防	講義
6回目	障害福祉サービス	講義
7回目	地域包括ケア	講義
8回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第4班

評価基準

学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領 域	専門分野Ⅱ	履修時期	2年次後期
科 目 名 (単元名)	精神看護の方法Ⅱ (精神障害の基本的知識)	時間数	11時間
講 師	山本 正史	実務経験 関連資格	医師

<概要>

ライフサイクルにおける心の健康について理解し、心の健康を維持するための看護、および心の健康を崩している人や、精神障害者と家族の看護に必要な基礎的能力を養う。

<科目目標>

1. 精神障害についての基本的な知識を学ぶ。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	精神障害の総論 統合失調、認知症など	講義
2回目	アルコール、発達障害、人格障害と治療	講義
3回目	双極性障害、神経症	講義
4回目	精神疾患の検査について	講義
5回目	精神疾患の治療について	講義
6回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第4版

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	専門分野	履修時期	2年次後期
科 目 名 (单元名)	精神看護の方法Ⅱ	時間数	21 時間
講 師	①吉野 小百合 ②青木 一也 ③岩坪 さより	実務経験 関連資格	①②③病院における看護師経験 ③別府市医師会立別府青山看護学校 教員

<概要>

ライフサイクルにおける心の健康について理解し、心の健康を維持するための看護、および心の健康を崩している人や、精神障害者と家族の看護に必要な基礎的能力を養う。個人対個人のレベルにとどまらず、家族や組織、チームといった集団の中での人間の営みをとらえる視点を学び、言語的・非言語的コミュニケーションのあり方や関係のダイナミクスについて学習する。

<科目目標>

1. 精神障害について基本的な知識を学び、精神障害者の看護について理解する。
2. 対象との人間関係を円滑にするための基本を学び、その活用方法を理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	精神看護の看護過程、アセスメントについて 事例：統合失調症	講義
2回目	療養環境の整備、安全管理、入院形態について	講義
3回目	精神看護の看護過程、アセスメントについて 事例：統合失調症	講義
4回目	精神障害を持つ人の看護、安全管理、セルフケア援助、セルフマネジメント	講義
5回目	精神障害者と精神医療・保健・福祉 継続看護について	講義
6回目	精神疾患と看護	講義
7回目	精神障害者と社会復帰 対象者との実際の関りについて	講義
8回目	精神疾患と看護、向精神薬の有害作用	講義
9回目	プロセスレコードについて	講義
10回目	、向精神薬の有害作用、身体合併症と看護	講義
11回目	終講試験	

テキスト・参考文献

1. 新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第4版

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。

領域	統合分野	履修時期	1年次前期
科目名	在宅看護概論	時間数	30時間
講師	①近藤 美穂子 ②古賀 和枝	実務経験 関連資格	①保健師経験 ②在宅における看護師経験
<p>&lt;概要&gt;  住み慣れた地域で生活しながら療養する人々、あるいは障害を持ちながら生活する人々とその家族を理解し、それら対象の思いに沿うために、QOL の重視・セルフケア、自己決定の尊重の必要性を考えた看護を学ぶ。また、「地域包括ケアシステム」における在宅看護の位置付けと看護職の役割について諸制度と合わせて学ぶ。</p> <p>&lt;科目目標&gt;  1. 在宅看護の概念について理解する  2. 在宅看護の対象についてその特徴を理解する。  3. 在宅看護における倫理について理解する。  4. 地域における保健・医療・福祉の諸制度について学び、在宅看護の位置付けと役割について理解する。</p>			
	内容	授業方法	
1回目	地域看護と在宅看護の考え方の位置関係について理解する。 在宅看護の変遷を知り、現在の状況に至る過程を理解する。 在宅看護が必要とされる背景と根拠(人口構成の変化・国民の価値観・家族構成の変化と介護の実情、等)を理解する。	講義	
2回目 3回目 ※	在宅看護の提供の場を知り、その実際を理解する。(訪問看護の実際) 在宅看護の特徴を医療施設と比較して考え、理解することができる。 継続看護の実際(在宅、外来、入院、施設)を知り、在宅看護の役割を理解する。 他職種との連携の実際を知り、チームケアの必要性を理解する。	講義	
4回目	在宅看護の提供の場を知り、その実際を理解する。 (行政・医療機関・訪問看護ステーション・外来、訪問、施設、通所系)	講義	
5回目	在宅看護における倫理的課題と権利保障について考え、その必要性を述べる ことができる。	講義	
6回目	在宅療養者の自律支援を促すこと方法と必要性について述べる ことができる。 在宅看護の対象者の生活と価値観を重視する支援について理解する。	講義	
7回目	家族の機能や現代の日本の家族の状況を知り、家族支援(家族のアセスメント・ 家族関係の調整・介護者の健康管理・レスパイトケア)の具体的な方策について 理解する。	講義	
8回目 9回目	在宅療養者に多く見られる症状や状態(脳血管疾患 認知症 感染症 ターミ ナル等)について知り、在宅での看護について考えることができる。 在宅における安全と健康危機管理について理解する。 (日常生活における)安全管理・災害時の看護)	講義	
10回目 11回目	在宅看護に関する法制度について理解し、説明することができる。 (介護保険法 障害者総合支援法 難病法等)	講義	
13回目	訪問看護サービスと制度と提供の実際を知り、説明することができる。 (訪問看護ステーションの開設基準・サービス開始までの流れ・訪問看護の展開 の概要・訪問看護の質保証 訪問看護の管理と運営、等)	講義 演習	
14回目	事例検討をし、在宅看護の実際を理解する。		
15回目	終講試験		
テキスト : 在宅看護論第6版 ヌーベルヒロカワ 国民衛生の動向 評価基準 : 学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 評価方法 : 筆記試験 80%、レポート 20%、合計 100%、60%未満は再試験を行う。			

領 域	統合分野	履修時期	2年次前期
科 目 名 (単元名)	在宅看護の方法 I	時間数	30時間
講 師	①近藤 美穂子 ②岩尾 尚子	実務経験 関連資格	①保健師経験 ②在宅における看護師経験

<概要>

在宅療養の主役は療養者本人と家族であり その人の生活スタイルを損なわないようにして看護を提供することが大切である。また在宅看護は様々な制度のもと提供されるため法律、制度の理解も必要である。対象の生活の場に伺って看護をするため、訪問時のマナーを身につけ、基本的な日常生活援助を対象に合わせて実施することを考えていく。

現役の訪問看護師から看護の実際を学び、在宅における医療機器についても学習する。

<科目目標>

- ・保健医療福祉の動向と訪問看護の位置づけ、役割が理解できる。
- ・訪問看護の制度について理解できる。
- ・訪問時のマナーが理解でき実践できる。
- ・訪問看護の実際の場面について演習を通して理解することができる。
- ・訪問看護の実際を現場の看護師の講義を通して理解することができる。
- ・在宅での特殊な技術を伴う看護の実際について理解することができる。

<内容>

	内容	授業方法
1回目 2回目	・授業概要の説明。 ・在宅療養者の日常生活援助のうち、清潔援助について基本的な学習をし、在宅への応用ができるように考えることができる。 (入浴、全身清拭、部分浴<手浴・足浴>、口腔ケア、洗髪、陰部洗浄)	講義 課題学習
3回目 4回目	・保健医療福祉の動向と訪問看護の位置づけについて理解する ・訪問看護の制度について理解する ・訪問看護の実際について知り、その概要について理解する ・訪問時の基本的なマナーの実際を学び実践できる	講義 演習
5回目	・訪問看護利用者及び家族の特性を知り、演習に活かすことができる 家族について(家族形態、機能、地域社会と家族、家族支援など)	講義 演習
6回目	・訪問看護の実際：家庭にある物品を利用して安全安楽な援助が実践できる。	講義 演習
7回目	・在宅における基本的な日常生活援助と工夫について理解する。 ・福祉用具の実際を学び、その利用方法や制度について理解する。	講義 演習
8回目 9回目	・在宅の環境について事例を通して理解する ・教育的視点での看護について、パンフレット、等視覚的な媒体を用いた 保健指導の実際を体験し理解を深める。 服薬介助、薬の管理 塩分制限の指導 水分の取り方の指導 等	講義 演習
10回目 11回目	・在宅看護の実際:発表会形式で 共有する ・在宅看護に関する法制度について理解する。	講義 演習(発表会)

12 回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護の実際(訪問看護ステーションの訪問看護師の講義)</li> <li>老老介護、困難事例、小児の訪問看護 訪問バックの中身</li> <li>・特殊技術を伴う在宅看護</li> <li>(人工呼吸療法、在宅酸素療法、連続的携帯式腹膜灌流、膀胱留置カテーテル法、胃瘻・経管栄養法、中心静脈栄養、褥瘡管理 吸引、気管切開口のケア 疼痛コントロール)</li> </ul>	講義 演習
13 回目		
14 回目		
15 回目	まとめ 筆記試験	

テキスト・参考文献

在宅看護論 第5版 ヌーベルヒロカワ(1年生の時にも使用したもの)

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 80点、レポート評価 20点、合計 100点、60点未満は再試験を行う。

領 域	統合分野	履修時期	2 年次前期
科 目 名 (単元名)	在宅看護の方法Ⅱ	時間数	15 時間
講 師	近藤 美穂子	実務経験 関連資格	在宅における保健師経験 元別府市医師会立別府青山看護学校 教員
<p>&lt;概要&gt; 地域で生活しながら療養する人、あるいは傷害を持ちながら生活する人と その家族を理解し在宅における看護の実際を 事例を通して考える。</p> <p>&lt;科目目標&gt; 1. 地域で療養する対象の「望む生活」が維持されるよう、支援する方法を学ぶ。 2. 在宅療養を支援するための関係機関や制度について理解し、事例を通して在宅看護の実際を考えることができる。 3. 対象の全体像を早期に把握する方法を学ぶ。 4. 在宅ターミナルについて考えることができる。</p>			
	内 容	授業方法	
1回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義の進め方について オリエンテーション</li> <li>在宅看護の特徴について説明できるようになる。</li> <li>在宅看護における看護過程の考え方の基本を理解する。</li> <li>課題事例の内容を、判断しながら読み解くことができる。</li> <li>基礎情報の整理の方法が理解できる。</li> </ul>	講義 演習	
2回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会資源の活用方法、用紙の記入方法について理解する。</li> <li>基礎情報の捉え方を理解する。</li> <li>アセスメントの視点について理解する。</li> </ul> (情報の整理とアセスメント・日常生活のアセスメント)	講義 演習	
3回目 4回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を整理し、在宅療養の継続を視野に入れたアセスメントの方法を理解することができる。</li> <li>全体像の把握をし、文章化することができる。</li> <li>在宅療養者の生活が心身ともに安全安楽であるか、判断することができる。</li> </ul>	講義 演習	
5回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅看護を理解し、看護計画を立案することができる。</li> </ul> (安全安楽な生活を継続するための方策を考え、支援するための看護の実際を考え、その理由、根拠を述べることができる。)	講義 演習	
6回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護の評価、計画の追加修正の必要性を理解できる。</li> </ul>	講義 演習	
7回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅で望む生活を送ることができるよう支援を考えているか、全体を見直し在宅看護の実際をイメージすることができる。</li> </ul>	講義 演習	
8回目	終講試験 (在宅ターミナルについて事例を通して自らの考えを述べるができる。)		
テキスト・参考文献 1. ヌーベルヒロカワ 「在宅看護論第 6 版」 2. 看護過程の授業で使用した資料。 3. 医学書院 系統看護学講座 「脳・神経」・「解剖生理学」			
評価基準 学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。			
評価方法 レポート評価 100%、60%未満は再試験を行う。			



領 域	統合分野	履修時期	3年次後期
科 目 名 (単元名)	看護研究	時間数	15 時間
講 師	塩田 和泉	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校教員

<概要>

看護研究の概要や実際を、実習で出会った事例を振り返り、ケーススタディとしてまとめながら学習する。このケーススタディは、すべての人々が健康で幸福な生活が送れるように、それぞれの貴重な経験を蓄え、伝え合うための有効な一手段である。また看護研究の望ましい基準を設定し実施することは、看護師の責任である。この科目は、臨床の場で働く際に行う看護研究の進め方の基礎的学習である。その実際を学ぶために看護研究学会の参加・聴講をとおして研究発表の実際を知り、幅広い視野で看護を見る目を養う。

<科目目標>

1. 看護における研究の意義を理解し、各分野での知識や実習(実践)を振り返り統合し、看護を研究的にとらえる力を養う。
2. 倫理的配慮について理解する。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	看護研究の概要と実際 1) 看護研究とは 2) 領域の選択 3) 研究計画書の作成 4) ケーススタディレポート(研究報告書)のまとめ方	講義・演習
2回目 3回目	ケーススタディの実際	演習
4回目 5回目 6回目	看護研究の実際	学会参加・聴講
7回目 8回目	ケーススタディ発表会	発表

※指定された「演習」時間を利用し、ケーススタディレポート作成に取り組むこと

テキスト・参考文献

新版『看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方』 第2版第 11 刷発行, 照林社

評価基準

学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

評価方法

- ①看護研究への取り組む姿勢(40点)・・・指導教員評価
  - ②レポート(研究報告書)の評価(60点)―最終提出日:12月6日(月)8時50分厳守
- ※①②合計100点満点で60点未満は再試験を行う。

領 域	統合分野	履修時期	1年次前期
科 目 名 (単元名)	医療安全 I	時間数	15時間
講 師	服平 敏枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校教員
<p>&lt;概要&gt; 人間の特性を念頭に、人はエラーを起こすことを認識し、起きた事象から学び、振り返ることで成長する。 看護職は医療事故の当事者となる可能性が高いことを自覚し、安全への配慮を忘れず、患者や自分自身の身分を守るための学習と理解を深める努力が必要である。准看護師の資格を持ち看護に従事する者として、そして看護師国家資格を目指す者として、医療安全に関する最新の知識を学び、主体的に安全を守る術を修得していく。</p> <p>&lt;科目目標(もしくは単元目標)&gt; 看護の知識・技術・態度を統合し、看護における医療安全の基礎的知識を理解し、安全についての考え方、安全を守る技術を身につける。</p> <p>&lt;内容&gt;</p>			
	学習内容	授業方法	
1回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療事故の実態(医療安全対策のはじまり)</li> <li>医療安全の意味と重要性</li> </ul>	講義 DVD 視聴	
2回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒューマンエラーの概念</li> <li>事故発生のメカニズム</li> </ul>	講義 DVD 視聴 グループワーク	
3回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故分析の考え方</li> <li>エラーが起こりにくいしくみ</li> </ul>	講義 グループワーク	
4回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームで取り組む安全文化の醸成</li> <li>チーム STEPPS</li> </ul>	講義 グループワーク	
5回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護業務に関連する事故と安全対策</li> <li>在宅看護における医療事故と安全対策</li> </ul>	講義 DVD 視聴	
6回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療従事者の安全を脅かすリスクと対策</li> <li>看護学生の実習と安全</li> </ul>	講義	
7回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機予知トレーニング(KYT)</li> <li>実習でのインシデント、記録の方法</li> </ul>	講義 グループワーク	
8回目	終講試験		
<p>テキスト・参考文献</p> <p>ナーシンググラフィカ 医療安全 看護の統合と実践② メディカ出版  系統看護学講座 統合 医療安全 看護の統合と実践② 医学書院 第4版  看護実践マネジメント/医療安全 メジカルフレンド社  医療安全ワークブック 医学書院</p>			
<p>評価基準</p> <p>学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。</p> <p>評価方法</p> <p>筆記試験(100点)、60点未満は再試験を行う。</p>			

領 域	統合分野	履修時期	3年次後期
科 目 名 (単元名)	医療安全Ⅱ	時間数	15 時間
講 師	①中谷 直美 ②安部 三枝子	実務経験 関連資格	①②病院における看護師経験 ②別府医師会立別府青山看護学校教員

<概要>

1999年に発生した手術患者取り違え事故をきっかけにして、医療安全対策は急速に発展している。看護基礎教育では、2009年度に保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正され、「統合科目」の中に「医療安全」の授業を組み込むこととされている。また、看護師の需要が高まる中で新人看護師の離職率が高く、離職原因の1つが「医療事故を起こすのではないかと不安だ」というものである。この不安を軽減するためには、看護基礎教育の期間にしっかりと看護実践能力を養うことが求められる。これらを背景に、わが国の医療安全対策や事故発生のメカニズムと発生防止の考え方、自分自身の力で医療事故を回避する方策について学習し、医療安全の基礎知識を基に安全に医療看護を提供できる基礎的能力を養う。

<科目目標>

1. 医療安全の基礎的知識を理解し、その知識を基に安全に医療看護を提供できる基礎的能力を養う。

	内容	授業方法
1回目 (安部)	医療安全と看護の責務 1. 医療事故増加の背景 2. 看護の事故発生の構造 医療安全推進の経緯 1. 医療安全に関する法律 2. 人間の特性 3. 事故防止の視点	講義
2回目 (安部)	事故の種類とその分析 1. 医療事故とインシデントレポートの分析と活用 2. 多重課題の特徴と対応	講義
3回目 (安部)	医療事故防止に対する取り組み (KYT 演習)	講義 演習
4回目 (中谷)	医療安全への取り組みと事故発生のメカニズムに関わるリスクマネジメントの実際 1. 国の医療安全への取り組み 2. 看護職能団体の取り組み 3. リスクマネージャーの役割とリスクマネジメント	講義
5回目 (中谷)	看護における医療事故と安全対策を考えた事故分析 1. 看護業務と事故発生要因 2. 臨床におけるインシデントや医療事故の種類と対策 3. 事故分析	講義
6回目 (中谷)	医療事故後の対応 1. 医療事故発生時の初期対応の考え方と方法 2. 紛争化の防止対策 3. 専門職としての備え	講義
7回目 (中谷)	医療の質の評価 1. 医療事故の報告制度、医療の質の評価	講義

8回目	終講試験	
<p>テキスト・参考文献</p> <p>ナースンググラフィカ 看護の統合と実践②医療安全(メデイカ出版)</p>		
<p>評価基準</p> <p>学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。</p> <p>評価方法</p> <p>筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う。</p>		

領 域	統合分野	履修時期	1年次後期
科 目 名 (単元名)	災害看護	時間数	15 時間
講 師	濱砂 勇矢	実務経験 関連資格	病院における看護師経験

<概要>

災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解するとともに、国際化をふまえ、広い視野に基づき看護師として諸外国との協力について考える。

<科目目標>

1. 災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解することができる。
2. 国際化をふまえ、広い視野に基づき看護師として諸外国との協力について考えることができる。

<内容>

	内容	授業方法
1回目	<災害と看護> 災害医療 災害の特徴、災害と法制度 災害時の支援体制と医療体制 災害の種類と特徴 自然災害、人為的災害、特殊災害、複合災害	講義
2回目	災害各期の看護 災害看護の特徴 災害各期(超急性期、急性期、慢性期、静穏気)の特徴 各期における保健医療の役割と看護 各期における要援護者への看護	講義
3回目	災害サイクルに応じた看護 応急処置	講義
4回目	応急処置 トリアージ	講義
5回目	トリアージ	講義
6回目	災害時要援護者に対する看護 災害と心のケア	講義
7回目	<国際看護> 看護における国際化の視点 グローバル化と世界共通の健康目標 グローバル化と人間の安全保障 国家・地域間の健康格差 国際保健における日本の役割 諸外国の看護制度	講義
8回目	終講試験	

テキスト・参考文献

評価基準

学科試験の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う

領 域	統合分野	履修時期	3年次後期
科 目 名	臨床看護実践	時間数	15 時間
講 師	①戸崎 由布子 ②岩坪 さより	実務経験 関連資格	①②病院における看護師経験 ①②別府市医師会立別府青山看護学校 教員

< 概要 >

看護実践能力は、①人々を理解する力、②人々中心のケアを実践する力、および③看護の質を改善する力である。複雑な状況下での看護場面を想定し、適切な看護判断ができる能力を養う。

< 科目目標(もしくは単元目標) >

- ①基本的な看護技術を活用し、対象にあった援助を考え安全安楽に実施することができる
- ②既習学習や臨地実習で得た知識や技術を統合し、看護援助を提供できる
- ③臨床現場に即した状況での看護実践を行い、自己の看護技術を振り返り課題を見出すことができる

< 内容 >

	内容	授業方法
1回目	臨床看護実践能力とは何か 事例検討から技術試験に向けてのオリエンテーション 対象の全体像をとらえる1	講義 演習
2回目	対象の全体像をとらえる2 対象の個別性をふまえた援助を考える	演習
3回目 4回目	対象の変化に応じた看護を考える クリティカルケア看護	講義 演習
5回目	知識確認テスト 技術試験オリエンテーション	講義 テスト
6回目 7回目 8回目	技術試験	試験

※上記以外の日課表にある「演習」の時間に技術試験に向けての練習を行う

テキスト・参考文献

看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標:厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001vb6s-att/2r9852000001vbjpg.pdf>

評価基準

学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

評価方法

- ①知識確認テスト(30点)
  - ②看護技術試験(振り返り含む)(60点)・・・1 学生45分間試験
  - ③事例学習における学習内容・課題(10点)
- } 合計100点満点

※①～③合計の6割未満は、再試験を行う。

領域	統合分野	履修時期	3年次後期
科目名 (单元名)	臨床看護実践 (看護管理)	時間数	15 時間
講師	眞弓 恵美子	実務経験 関連資格	病院における看護師および管理者経験

<概要>

看護管理は、看護実践者に必要な知識と技術となる。看護サービスを提供するためには、看護職同士の協働、他職種との連携、なにより対象者自身や対象者を取り巻く家族の協力とともに、対象者を取り巻くあらゆる資源を十分に活用することが必要となる。この資源をどのように有効利用するかが重要であり、それを維持・活用するための「しくみ」が看護管理(マネジメント)である。看護をしくみとしてとらえ、同時に多数の人々がともに働くための技であり、自分自身のキャリアマネジメントを含め、チーム医療の一員としての看護マネジメントを学び、看護実践者としての基礎的態度を養う。

<科目目標>

1. 看護の知識・技術・態度を統合できるための基礎的能力を理解する
2. 看護チームの一員として看護を実践する基礎的能力を理解する
3. チーム医療の一員として、多職種連携を学び、チーム医療を実践するための基礎的能力を理解する

<内容>

	内容	授業方法
1回目	I. 看護とマネジメント 1. 看護管理学とは 2. 看護におけるマネジメント	講義
2回目	II. 看護ケアのマネジメント 1. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2. 患者の権利の尊重	講義
3回目	3. 安全管理 4. チーム医療 5. 看護業務の実践	講義
4回目	III. 看護職のキャリアマネジメント	講義
5回目	IV. 看護サービスのマネジメント	講義
6回目	V. マネジメントに必要な知識と技術	講義
7回目	VI. 看護を取り巻く諸制度	講義
8回目	終講試験	

テキスト・参考文献

系統看護学講座 統合分野 看護管理 医学書院

評価基準

学科試験の成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

評価方法

筆記試験 100%、60%未満は再試験を行う